高めよう 地域協働の力！

令和４年度改訂版

多面的機能支払交付金の活動の手引き

活動組織用

栃木県　農政部
栃木県農地水多面的機能保全推進協議会

令和４年８月

はじめに

農業・農村は、国土の保全、水源の涵（かん）養、自然環境の保全、良好な景観の形成等の多面的機能を有しており、その利益は広く国民が享受しています。

しかしながら、近年の農村地域の過疎化、高齢化、混住化等の進行に伴う集落機能の低下により、地域の共同活動によって支えられている多面的機能の発揮に支障が生じつつあります。また、共同活動の困難化に伴い、農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理に対する担い手農家の負担の増加も懸念されています。

農林水産省では、このような状況に鑑み、多面的機能支払交付金により、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進します。また、これらの活動により、農業・農村の有する多面的機能が今後とも適切に維持・発揮させるとともに、担い手農家への農地集積という構造改革を後押しします。

この手引きは、地域の皆さんが「多面的機能支払交付金」を活用して活動に取り組んでいただけるよう、計画の策定、活動の実施、活動の報告など一連の流れに沿って具体的な進め方を解説したものです。

地域の共同活動の例と交付金の構成区分

地域資源の基礎的保全活動の例

農地法面の草刈り

水路の泥上げ

ため池の草刈り

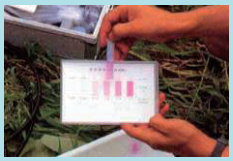
農道の路面維持

地域資源の質的向上を図る共同活動の例

水路のひび割れ補修

農道の部分補修

ため池の外来種駆除


水質調査

施設の長寿命化のための活動の例

素掘り水路からコンクリート水路への更新

老朽化した水路壁のコーティング

未舗装の農道をアスファルトで舗装

多面的機能支払交付金

- 農地維持支払交付金
- 資源向上支払交付金（地域資源の質的向上を図る共同活動）
- 資源向上支払交付金（施設の長寿命化のための活動）

目　次

多面的機能支払交付金の概要

１　交付金の構成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２　活動の手順　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

３　手続きの概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

Ⅰ　組織の設立

１　対象地域の設定　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

２　構成員の取りまとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

３　規約（案）の作成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

４　事業計画（案）の作成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

５　活動計画（案）の作成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14

６　総会の開催　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29

Ⅱ　事業計画の認定　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30

Ⅲ　交付金及び概算払の申請　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　34

Ⅳ　活動の実施・記録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　35

Ⅴ　活動の報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　46

Ⅵ　地域資源保全管理構想　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　56

Ⅶ　活動項目番号表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　69

Ⅷ　活動における注意事項等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　73

多面的機能支払交付金の概要

1. 交付金の構成

多面的機能支払交付金は、農地維持支払交付金と資源向上支払交付金から構成されます。

(1) 農地維持支払交付金

以下の活動に対して支援を行います。

①地域資源の基礎的な保全活動
（水路の草刈り・泥上げ、農道の路面維持など）

②地域資源の適切な保全管理のための推進活動
（活動組織の体制の強化、保全管理構想の作成など）

(2) 資源向上支払交付金

以下の活動に対して支援を行います。

1）地域資源の質的向上を図る共同活動

①施設の軽微な補修
（水路、農道、ため池の軽微な補修など）

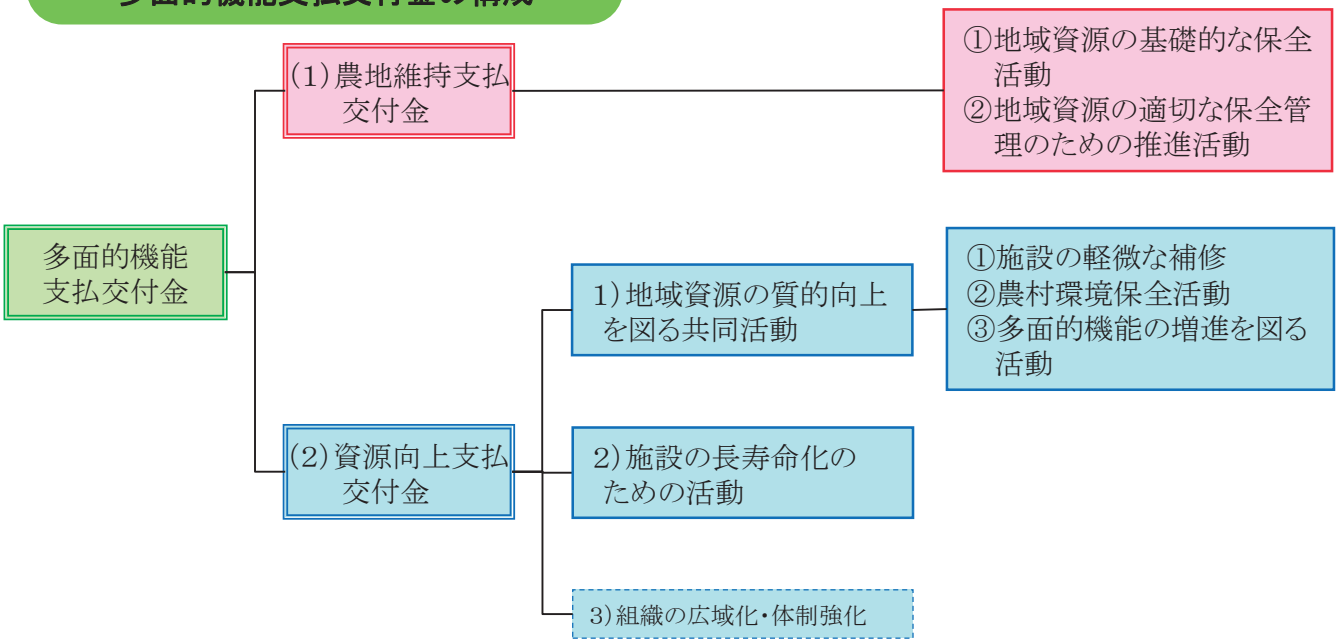
②農村環境保全活動
（水質調査、外来種の駆除など）

③多面的機能の増進を図る活動
（防災・減災力の強化、遊休農地の有効活用など）

2）施設の長寿命化のための活動
（老朽化が進む水路等の補修・更新など）

3）組織の広域化・体制強化

多面的機能支払交付金の構成



2. 活動の手順

多面的機能支払交付金を活用した活動は、以下の手順で実施します。

Ⅰ　組織の設立

活動組織を設立します。設立にあたっては設立総会等を開催します。
事前に、規約や事業計画書、活動計画書の案を作成し、総会で構成員からの合意を得ます。

Ⅰ-1　対象地域の設定　→5ページへ
Ⅰ-2　構成員の取りまとめ　→6ページへ
Ⅰ-3　規約（案）の作成　→7ページへ
Ⅰ-4　事業計画（案）の作成　→12ページへ
Ⅰ-5　活動計画（案）の作成　→14ページへ
Ⅰ-6　総会の開催　→29ページへ

Ⅱ　事業計画の認定

市町村長に事業計画書を提出します。事業計画が認定されると市町村長から認定通知書が送付されます。

→30ページへ

Ⅲ　交付金及び概算払の申請

当該年度の活動に必要な交付金を市町村長に申請します。
市町村長から交付決定の通知が送付されます。
必要に応じて、概算払請求書を市町村長に提出し、交付金の一部又は全部を請求することができます。

→34ページへ

Ⅳ　活動の実施・記録

交付金を活用し、事業計画に基づき、活動計画書に定めた農用地、水路等の地域資源の保全活動等を実施します。
実施した日々の活動について、作業の内容や金銭の収支等を記録します。

→35ページへ

Ⅴ　活動の報告

当該年度の活動記録を取りまとめて実施状況報告書を作成し、市町村長に提出します。

→46ページへ

令和４年度 改正のポイント

（1）事務の簡素化

保管すべき証拠書類※1 のうち、電磁的記録により保管が可能なものは、電磁的記録によることができるようになりました。

※1　実施要領第１の１４、第２の１７及び１８に基づく証拠書類が対象となります。

（2）活動要件の見直し

「６０　広報活動・農的関係人口の拡大」
⇒「地域外からの呼び込みによる農的関係人口の拡大のため」の広報活動も対象となります。

６０　広報活動

↓

６０　広報活動・農的関係人口の拡大

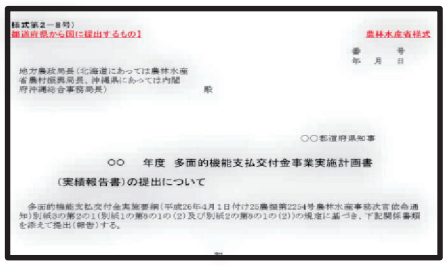
（3）一部様式の廃止・提出免除

1．実施状況の確認通知書の様式を廃止します。

実施要領別記３－１様式第5号の通知書様式を廃止し、市町村の事務負担を軽減します。

2．実施計画書（実績報告書）の重複提出を免除します。

実施要領様式２－８号実施計画書（実績報告書）について、交付要綱別記様式第1号交付申請書、別記様式第6号への添付形式として既に提出していた際は、提出を免除します。



3．各様式に様式作成者及び提出先を明記します。

3. 手続きの概要

組織の設立から事業計画の認定まで

活動組織

①規約等の作成

対象地域の設定、構成員の取りまとめを行い、組織の設立に必要な規約などの案を作成します。 ･･･P.5

- 規約 ･･･P.7

②事業計画書の作成

組織が取り組む事業計画の案を作成します。

- 事業計画書 ･･･P.12

③活動計画書の作成

組織が取り組む活動計画の案を作成します。

- 活動計画書 ･･･P.14

④設立総会の開催

総会を開催し、規約や事業計画等の案について組織構成員の合意を得ます。 ･･･P.29

⑤事業計画の申請

市町村長に事業計画書を提出し、事業計画の申請を行います。 ･･･P.30

⑥事業計画の認定の通知

市町村長から事業計画の認定通知書が送付されます。

市町村

【申請期限】

6月30日まで

市町村 ⇕ 審査 県協議会

交付金の交付申請から報告まで

活動組織

③活動の記録

活動の実施と併せて、活動記録や金銭出納簿などを作成します。

- 活動記録 ･･･P.35
- 金銭出納簿 ･･･P.37
- 財産管理台帳 ･･･P.42

④報告書類の作成

日々記録した活動記録及び金銭出納簿を集計し、実施状況報告書を作成します。 ･･･P.46

- 実施状況報告書 ･･･P.48
- 添付書類 ･･･P.47

①交付金の申請

市町村長に交付申請書を提出します。 ･･･P.34

- 交付申請書 ･･･P.34

②交付決定・支払

市町村長から交付決定の通知が送付されます。その後、概算払請求により交付金が支払われます。

市町村

【申請期限】

市町村が定める日

＿月＿日まで

⑤実施状況報告

市町村長に実施状況報告書などを提出します。 ･･･P.46

⑥確認結果の通知

確認後のチェックシートについては、必要に応じて送付します。

市町村

【報告期限】

市町村が定める日

＿月＿日まで

市町村 ⇕ 確認指導 県協議会

I 組織の設立

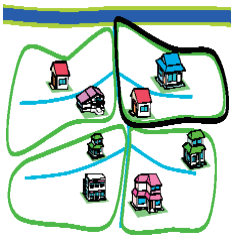
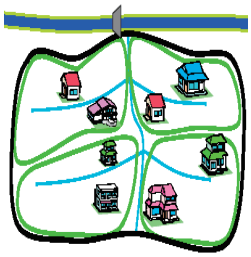
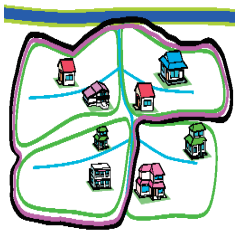
多面的機能支払交付金を活用した活動を行うためには、活動組織を設立する必要があります。

1. 対象地域の設定

- 組織づくりは、対象地域を設定することから始めます。
- 地域の水路や農道などを守っていく共同活動にもっとも取り組みやすいまとまりを、それぞれの地域に応じて設定します。
- 対象地域の単位は、集落ごと、ため池や堰などの用水がかりごと、ほ場整備などの事業実施区域ごとなど、様々なまとまりが考えられます。
- 合意形成が可能なまとまりで、対象地域を検討して下さい。

※　活動の対象となる区域が旧市区町村等の広域に及ぶ場合には、広域活動組織を設立することができます。広域活動組織化により、事務負担の軽減や運営体制の強化が期待できます。広域活動組織を設立して活動を実施する場合は、「多面的機能支払交付金の活動の手引き（広域活動組織用）」を参照して下さい。

対象地域の単位の例

集落単位	集落営農単位
	
集落ぐるみで保全活動を行う体制	集落営農組織で保全活動を行う体制
水系単位	**事業単位**
	
ため池や堰などの水系単位で保全活動を行う体制	ほ場整備事業などの事業実施区域単位で保全活動を行う体制

2. 構成員の取りまとめ

構成員

活動組織の構成員は、以下の者により構成されます。

1）農業者、地域住民、自治会、農業者団体等の地域の実情に応じた者
2）農業者、農業者団体等の地域の実情に応じた者

団体の場合は、その団体の中で、活動組織の構成員となることを合意・決定した上で参加して下さい。

活動組織の構成

農地維持支払交付金

① **農業者のみ**で構成される活動組織
② 農業者及びその他の者(地域住民、団体など)で構成される活動組織

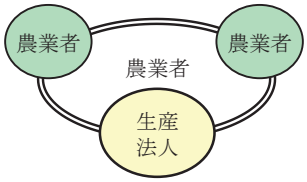
資源向上支払交付金

○共同活動
農業者及びその他の者（地域住民、団体など）で構成される活動組織

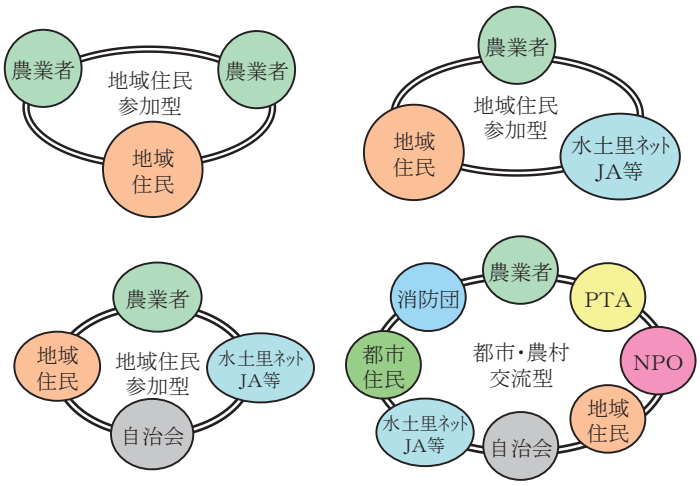
○施設の長寿命化、組織の広域化・体制強化
農地維持支払交付金と同様の活動組織

活動組織の構成例

①農業者のみで構成



②農業者及びその他の者で構成



3. 規約（案）の作成

（1）規約の作成

活動の目的、構成員、議決方法など組織運営の基本となる事柄を確認するため、規約を定めます。

（2）規約の内容について

規約の内容は、以下の様式のとおりです。（多面的機能支払交付金実施要領別記６－１）

（別記６－１）

このページは規約の記載例です。
必要に応じて追記等して下さい。

〇〇地域資源保全会 規約

〇〇年〇月〇日制定

総会で本規約が制定された日付を記入します。

第１章　総則

（名称）
第１条　この活動組織は、〇〇地域資源保全会（以下「活動組織」という。）という。

（事務所）
第２条　活動組織は、主たる事務所を〇〇県〇〇市〇〇△△に置く。

資源向上活動を実施する場合のみ記載します。

（目的）
第３条　活動組織は、第4条の構成員による農地維持活動又は資源向上活動を通じ、〇〇市〇〇に存する農用地、水路、農道等の地域資源及び農村環境の保全 並びに水路・農道等の施設の長寿命化を図ることを目的とする。

資源向上活動（共同）を実施する場合のみ記載します。

資源向上活動（長寿命化）を実施する場合のみ記載します。

第２章　構成員等

（構成員）
第４条　活動組織の構成員は別紙のとおりとする。

活動組織の構成に当たっては、地域の実情を踏まえ、関係者が十分協議して下さい。

第３章　役員等

（役員の定数及び選任）
第５条　活動組織に、代表1名、副代表〇名、書記〇名、会計〇名、監査役〇名を置くこととする。代表等役員は別紙のとおりとする。
2　代表、副代表及び監査役は総会において構成員の互選により選任するものとし、書記及び会計は、代表が指名するものとする。
3　代表は、この活動組織を代表し、活動組織の業務を統括する。
4　副代表は、代表を補佐し、代表が欠けたときは、代表を代行する。
5　書記は、活動組織の活動の事務等を行う。
6　会計は、責任者として事業の会計を行う。
7　監査役は、責任者として会計の監査を行う。

（役員の任期）
第６条　役員の任期は、〇年とする。
2　補欠又は増員による任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

第４章　総会

（総会の開催）
第７条　通常総会は、毎年度1回以上開催する。
2　臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。
一　構成員現在数の3分の1以上から会議の目的たる事項を示した書面により請求があったとき。
二　監査役が不正な事実を発見し、報告するために招集したとき。
三　その他代表が必要と認めたとき。
3　前項第一号の規定により請求があったときは、代表は、その請求のあった日から30日以内に総会を招集しなければならない。
4　総会の招集は、少なくともその開催の7日前までに、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって構成員に通知しなければならない。

実施する活動内容に応じて選択して記載します。

（総会の権能）
第８条　総会はこの規約において別に定めるもののほか、次の各号に掲げる事項を議決する。
一　農地維持活動に関する活動計画の設定又は変更及び実施に関すること。
二　資源向上活動に関する活動計画の設定又は変更及び実施に関すること。
三　農地維持支払交付金及び資源向上支払交付金（施設の長寿命化のための活動を除く）の収支決算に関すること。
四　資源向上支払交付金（施設の長寿命化のための活動）の収支決算に関すること。
五　活動組織規約の制定及び改廃に関すること。
六　その他活動組織の運営に関する重要な事項。

これまで資源向上支払（長寿命化）を実施する場合で、農地維持支払及び資源向上支払（共同）との経理を区分しない場合は、三及び四を区分せずに「農地維持支払交付金及び資源向上支払交付金の収支決算に関すること」と記載するようにしていましたが、令和元年度からの金銭出納簿では、農地維持支払・資源向上（共同）と資源向上（長寿命化）双方の交付金の収支が1つの様式で把握できるようになったため、規約の変更は必須ではなくなりました。

（総会の議決方法等）
第９条　総会は、構成員現在数の過半数の出席がなければ開くことができない。ただし、出席は委任状をもって代えることができる。
2　総会においては、第7条第4項によりあらかじめ通知された事項についてのみ議決することができる。ただし、緊急を要する事項については、この限りでない。
3　総会の議事は、第10条に規定するものを除き、出席した構成員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
4　議長は、構成員として総会の議決に加わることができない。
5　総会により決定した事項については、決定事項を記載した書面を作成するとともに、その写しを構成員全員に配布等により確実に周知するものとする。

総会の議決方法は、上記第9条第3項に示す方法もしくは以下に示す方法のいずれかを選択して下さい。
3　総会の議事は、第10条に規定するものを除き、各集落の構成員それぞれ1票により集落としての議決を行った後、各集落及び団体の代表でそれぞれ1票により行い、過半数で決する。なお、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（特別議決事項）
第10条　次の各号に掲げる事項は、総会において、出席者の議決権の3分の2以上の多数による議決を必要とする。
一　活動組織規約の変更
二　活動組織の解散
三　構成員の除名
四　役員の解任

第５章　事務、会計及び監査

（書類及び帳簿の備付け）
第11条　活動組織は、第2条の事務所に、次の各号に掲げる書類及び帳簿を備え付けておかなければならない。
一　活動組織規約
二　役員等の氏名及び住所を記載した書面
三　収入及び支出に関する証拠書類、帳簿及び財産管理台帳
四　その他代表が必要と認めた書類

（書類の保存）
第12条　活動組織は、前条各号に掲げる書類を交付金の交付が完了した日が属する年度の翌年度から起算して、5年間保存することとする。

（事業及び会計年度）
第13条　活動組織の事業及び会計年度は、毎年4月１日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（資金）
第14条　活動組織の資金は、次の各号に掲げるものとし、その会計に当たっては他の会計と区分して経理する。
一　農地維持支払交付金及び資源向上支払交付金（施設の長寿命化のための活動を除く）
二　資源向上支払交付金（施設の長寿命化のための活動）
三　その他の収入

交付を受ける交付金の内容に応じて記載します。

これまで資源向上支払（長寿命化）を実施する場合で、農地維持支払及び資源向上支払（共同）との経理を区分しない場合は、一及び二を区分せずに「農地維持支払交付金及び資源向上支払交付金の収支決算に関すること」と記載するようにしていましたが、令和元年度からの金銭出納簿では、農地維持支払・資源向上（共同）と資源向上（長寿命化）双方の交付金の収支が1つの様式で把握できるようになったため、規約の変更は必須ではなくなりました。

（事務経費支弁の方法等）
第15条　活動組織の事務に要する経費は、第14条の資金をもって充てる。

（活動計画の作成）
第16条　活動計画は、総会の議決を得てこれを定める。なお、計画の作成に当たっては、活動時の安全（作業前の危険箇所の確認・共有など）について考慮し作成するものとする。

（資金の支出）
第17条　資金の支出者は、代表とする。

（資金の流用）
第18条　資金は、定められた目的以外に使用し、又は流用してはならない。

（金銭出納の明確化）
第19条　出納の事務を行う者は、金銭の出納及び保管を厳正かつ確実に行い、日々の出納を記録し、常に金銭の残高を明確にしなければならない。

（金銭の収納）
第20条　金銭を収納したときは、領収証を発行しなければならない。
2　金融機関への振込の方法により入金する場合は、入金先の要求がある場合のほか、領収証を発行しないものとする。

（領収証の徴収）
第21条　金銭の支払については、受取人の領収証を徴収しなければならない。ただし、領収証の徴収が困難な場合には、レシート等をもってこれに代えることができる。
2　金融機関への振込の方法により支払を行うときは、取扱金融機関の振込金受取書をもって支払先の領収証に代えることができる。

資源向上活動により、施設の更新又は新たに設置を行う場合は、以下の第22条の規定を追加してください。
（財産の管理）
第22条　資源向上活動により更新又は新たに設置した施設については、財産管理台帳に記録し、適正に管理するものとする。

（物品の管理）
第22条　活動組織が購入又は借り入れした器具、備品及び資材については、滅失及びき損のないよう、適正に管理するものとする。

（決算及び監査）
第23条　活動組織の決算については、代表が事業年度終了後、金銭出納簿、事業報告書及び財産管理台帳を、通常総会の開催の日の○日前までに監査役に提出しなければならない。
2　監査役は、前項の書類を受領したときは、これを監査し、監査報告書を作成して代表に報告するとともに、代表は監査について、毎会計年度終了後○日以内に総会の承認を受けなければならない。

第６章　活動組織規約の変更

活動にかかる日当単価、草刈機や軽トラック等資機材の賃借料、研修旅費等のほか、外部委託する場合の契約方法（見積徴集や契約単価等）について、細則に規定し、総会で議決してください。

（規約の変更）
第24条　この規約を変更した場合は、市町村長に報告をしなければならない。

第７章　雑則

（細則）
第25条　多面的機能支払交付金実施要綱、多面的機能支払交付金実施要領、その他この規約に定めるもののほか、活動組織の事務の運営上必要な細則は、代表が別に定める。

附　則
1　この規約は、令和○○年○月○日から施行する。
2　活動組織の設立初年度の役員の選任については、第5条第2項中「総会」とあるのは、「設立総会」と読み替えるものとし、その任期については、第6条第1項の規定にかかわらず、令和○○年○月○日までとする。
3　活動組織の設立初年度の活動計画の議決については、第16条中「総会」とあるのは、「設立総会」と読み替えるものとする。

設立総会の開催等により、活動組織に参加することについて、構成員の了解を得て下さい。

（規約別紙）

令和○年○月○日

○○地域資源保全会構成員一覧

以下３．の構成員は、○○地域資源保全会へ参加するとともに、活動組織の代表、役員を下記１．２．のとおり定めます。

１．代表

役職名	氏名	住所	備考
代表	多面　太郎	○○県△△市○町○-○-○	

２．役員

役職名	氏名	住所	備考
副代表	多面　花子	○○県△	○○集落
会計	多面　次郎	○○県△	○○自治会
―	・・・・・・	○○○	

活動組織の事務所を設置している場合は事務所の所在地を、事務所がない場合は代表者の住所を記載します。

所属する集落や団体名を記載します。

３．構成員

★分類欄は「分類番号リスト」より番号を選択してくだ

★団体の場合は代表者名を記入してください。

「役職名」欄には活動組織における役職名を記載します。

（１）　○○集落

①　農業者の個人また　こ位置付けられている農用地において耕作又

分類	氏名	住所	備考（団体名等）
1．農業者個人	多面　太郎	○○県△△市○町○-○-○	○○集落代表
2．農事組合法人	多面　次郎	○○県△△市○町○○	
―	・・・・・・	○○○	

役員が団体に所属する場合は、役員の備考欄に3の（2）と同じ団体名を記載します。

②　農業者以外の個人

分類	氏名	住所	備考
5．農業者以外個人	多面　A子	○○県△△市○町○○	
―	・・・・・・	○○○	

（２）農業者以外の団体　（代表者名のみ記載

「氏名」欄には、団体の代表者氏名及び団体における役職名を記載します。

分類	氏名	住所	備考（団体名等）
6．自治会	副会長　多面　三郎		
7．女性会	会長　多面　D美		
―	・・・・・・		

「分類」欄には右図の分類番号リストから番号と分類名を記載します（手書きの場合は、分類名は省略が可能です）。

分類番号リスト

農業者				農業者以外								
個人として参加	団体として参加			個人として参加	団体として参加							
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
農業者個人	農事組合法人	営農組合	その他の農業者団体	農業者以外個人	自治会	女性会	子供会	土地改良区	JA	学校・PTA	NPO	その他の農業者以外団体

※資源向上支払（地域資源の質的向上を図る共同活動）を実施する場合、農業者以外の構成員の参画が必須です。

4. 事業計画（案）の作成

活動組織が農地維持活動及び資源向上活動を円滑に実施できるようにするため、事業の目標、内容、実施期間及び構成員に係る事項を定めた事業計画（案）を作成します。

事業計画（案）の内容は、以下の様式のとおりです（多面的機能支払交付金実施要領様式第１－２号）。

なお、本事業計画（案）の市町村長への提出にあたっては、多面的機能支払交付金実施要領様式第１－１号の認定申請書を作成し、これに添付します。

※様式第１－１号・１－２号は、多面的機能支払、中山間地域等直接支払、環境保全型農業直接支払の共通様式になります。

これは多面的機能支払交付金のみに取り組む場合の記載例です。必要に応じて追記等してください。
中山間地域等直接支払交付金など、他の事業にも併せて取り組む場合は、必要事項を書き加えます。

（様式第１－２号）

【活動組織から市町村に提出するもの】　　農林水産省様式

多面的機能発揮促進事業に関する計画

令和○年○月○日
○○地域資源保全会

１　多面的機能発揮促進事業の目標

１．現況

（例）本地域は、水資源に恵まれ、良質な米を生産している。今後とも農業振興を図るためには、農業用用排水路を適切に保全管理することが必要である。

市町村と相談し、地域の特色を踏まえて記載してください。

２．目標

（例）１を踏まえ、本地域では、地域住民と協力して農業用用排水路の清掃等を行うことにより、多面的機能の発揮の促進を図ることとしている。

活動内容を踏まえて記載してください。

２　多面的機能発揮促進事業の内容

（１）多面的機能発揮促進事業の種類及び実施区域

①　種類（実施するものに○を付すこと。）

交付金を受ける活動内容に合わせて記載してください。

１号事業（多面的機能支払交付金）		
	○	農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律（平成26年法律第78号。以下「法」という。）第３条第３項第１号イに掲げる施設の維持その他の主として当該施設の機能の保持を図る活動（以下「イの活動」という。）（農地維持支払交付金）
	○	法第３条第３項第１号ロに掲げる施設の改良その他の主として当該施設の機能の増進を図る活動（以下「ロの活動」という。）（資源向上支払交付金）
	２号事業（中山間地域等直接支払交付金）	
	３号事業（環境保全型農業直接支払交付金）	
	４号事業（その他農業の有する多面的機能の発揮の促進に資する事業）	

②　実施区域

（例）農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する活動計画書（以下「活動計画書」という。）「（別添１）実施区域位置図」のとおり。

（２）活動の内容等

① １号事業

１）事業に係る施設の所在及び施設の種類、活動の別

（例）　活動計画書「Ⅰ．地区の概要」の「１．活動期間」及び「２．実施区域内の農用地、施設」並びに「（別添１）実施区域位置図」のとおり。

２）活動の内容

（例）　イ　イの活動

活動計画書「３．活動の計画」の「（１）農地維持支払」に記載のとおり。

ロ　ロの活動

活動計画書「３．活動の計画」の「（２）資源向上支払（共同）」及び「（３）資源向上支払（長寿命化）」に記載のとおり。

活動内容に合わせて記載してください。

３　多面的機能発揮促進事業の実施期間

（例）活動計画書「Ⅰ．地区の概要」の「１．活動期間」のとおり。

４　農業者団体等の構成員に係る事項

（例）「（別添２）構成員一覧」に記載のとおり。多面的機能支払交付金実施要領「別記６－１活動組織規約」の「（別紙）構成員一覧」に代えることもできる。

（様式第１－１号）

本様式に上記様式（様式第１－２号）を添付し提出して下さい。

農林水産省様式

令和○年○月○日

△△市長　殿

○○地域資源保全会

多面　太郎

多面的機能発揮促進事業に関する計画の認定の申請について

このことについて、農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律（平成26年法律第78号）第７条第１項の規定に基づき、下記関係書類を添えて認定を申請する。

記

１　事業計画

２　農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する活動計画書

■　１号事業（多面的機能支払交付金）

□　２号事業（中山間地域等直接支払交付金）

□　３号事業（環境保全型農業直接支払交付金）

多面的機能支払交付金にのみ取り組む場合の記載例です。

３　その他

□　都道府県の同意書の写し（都道府県営土地改良施設の管理）

5. 活動計画（案）の作成

多面的機能支払交付金の対象となる活動は、活動計画に基づき実施されます。

活動計画は、都道府県が策定する「要綱基本方針」に基づき作成する必要があります。

※「要綱基本方針」とは、国が示す活動指針を基礎として都道府県が策定する、多面的機能支払交付金の対象となる活動の項目を区分して整理した方針です。

※活動計画書の様式第１－３号のⅠ．地区の概要（共通）は、多面的機能支払交付金と中山間地域等直接支払交付金、環境保全型農業直接支払交付金と共通様式です。多面的機能支払交付金の活動計画については、Ⅱ．１号事業の別紙１を使用します。

様式の経過措置等について（令和３年度改正の実施要領附則３）

- 令和２年度までに事業計画の認定を受けた対象組織は、従来の活動計画書の様式を使用することもできますが、新様式に移行されることをお勧めします。

農林水産省様式

（様式第１－３号）　令和○年○月○日

【活動組織から市町村に提出するもの】

農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する活動計画書

（多面的機能支払に係る活動計画書、中山間地域等直接支払に係る集落協定、環境保全型農業直接支払に係る営農活動計画書）

該当する項目のみを記載します

（ふりがな）	まるまるちいきしげんほぜんかい
組織名	○○地域資源保全会
（ふりがな）	ためん　たろう
代表者氏名	多面　太郎
（ふりがな）	まるけんさんかくしまるちょう
所在地	○○県△△市○町○-○-○

Ⅰ．地区の概要（共通）

多面的機能支払、中山間地域等直接支払、環境保全型農業直接支払の活動計画書などで使用する共通様式です。

＜活動の計画＞

■	Ⅱ．１号事業（多面的機能支払）	別紙１
□	Ⅲ．２号事業（中山間地域等直接支払）	別紙
□	Ⅳ．３号事業（環境保全型農業直接支払）	別紙
□	Ⅴ．その他多面的機能の発揮の促進に資する事業に係る計画書	別紙

（注）該当する活動にチェックし、取り組む活動の別紙のみ添付すること

＜施行注意＞

提出の際に（　）内は、多面的機能支払に係る活動計画書、中山間地域等直接支払に係る集落協定、環境保全型農業直接支払に係る営農活動計画書のうち該当する活動の計画書若しくは協定を記載すること。

Ⅰ．地区の概要

（1）活動期間

活動の実施期間を設定します。

活動期間は、原則として５年間とします。

資源向上支払交付金（長寿命化）については、対象施設の補修や更新等の目的が達成可能な年数に短縮することもできます。

１．活動期間

	活動開始年度	活動終了年度	交付金の交付年数	計画変更年度	
農地維持支払	令和４年度	令和８年度	５年	○年度	○年度
資源向上支払（共同）	令和４年度	令和８年度	５年	○年度	○年度
資源向上支払（長寿命化）	令和４年度	令和８年度	－		
中山間地域等直接支払	○年度	○年度	年		
環境保全型農業直接支払	○年度	○年度	年		

計画変更を行った場合は変更した年度を記入して下さい。

交付金の交付を受けずに活動を行う場合は、いずれの欄も記入しないで下さい。ただし、農地維持又は資源向上（共同）の交付金をもって資源向上（長寿命化）に取組む場合は、開始年度・終了年度を記載し、交付金の交付年数を「－」としてください。

（2）実施区域内の農用地、施設

実施区域内の農用地、施設とは、事業計画に位置づけて活動を実施する農用地（認定農用地※）及び水路等の施設のことです。

※　認定農用地・・・活動組織が共同活動を実施する農用地
　　対象農用地・・・交付金の算定の対象となる農用地

公共用施設は、市町村等の施設管理者が管理を行っているため、原則として共同活動の対象にはなりません。保全管理対象施設に位置づけてよいかどうかは市町村に確認してください。

２．実施区域内の農用地、施設

協定農用地面積又は認定農用地面積※１		田	畑	草地	採草放牧地	計	うち遊休農地面積	年当たり交付金額上限
	多面支払	4,600a	900a	a		5,500 a	25 a	4,782,8
	中山間直払					a	a	
	傾斜							
取組面積	環境直払※２							

※１　多面支払の認定農用
※２　環境直払に取り組む場合は、Ⅳの４の交付金額の取組面積の合計及び年当たり交付金額上限の
　　記載するものとする。

農用地の面積については、国土調査等による地籍図等に基づく台帳の合計面積や1/2,500程度以上の縮尺図面の図測による算定を基本とします。詳細については市町村に確認してください。

・遊休農地の一部を解消した場合は、数値を変更の上、届出を行います。
・遊休農地については、活動計画書に位置付けた活動を行い、活動期間内に耕作可能な状態とする必要があります。

農業用施設（多面支払）	水路	農道	ため池
	8.2 km	7.5 km	5　箇所
うち、資源向上支払（長寿命化）の対象施設	0.3 km	1.5 km	3　箇所

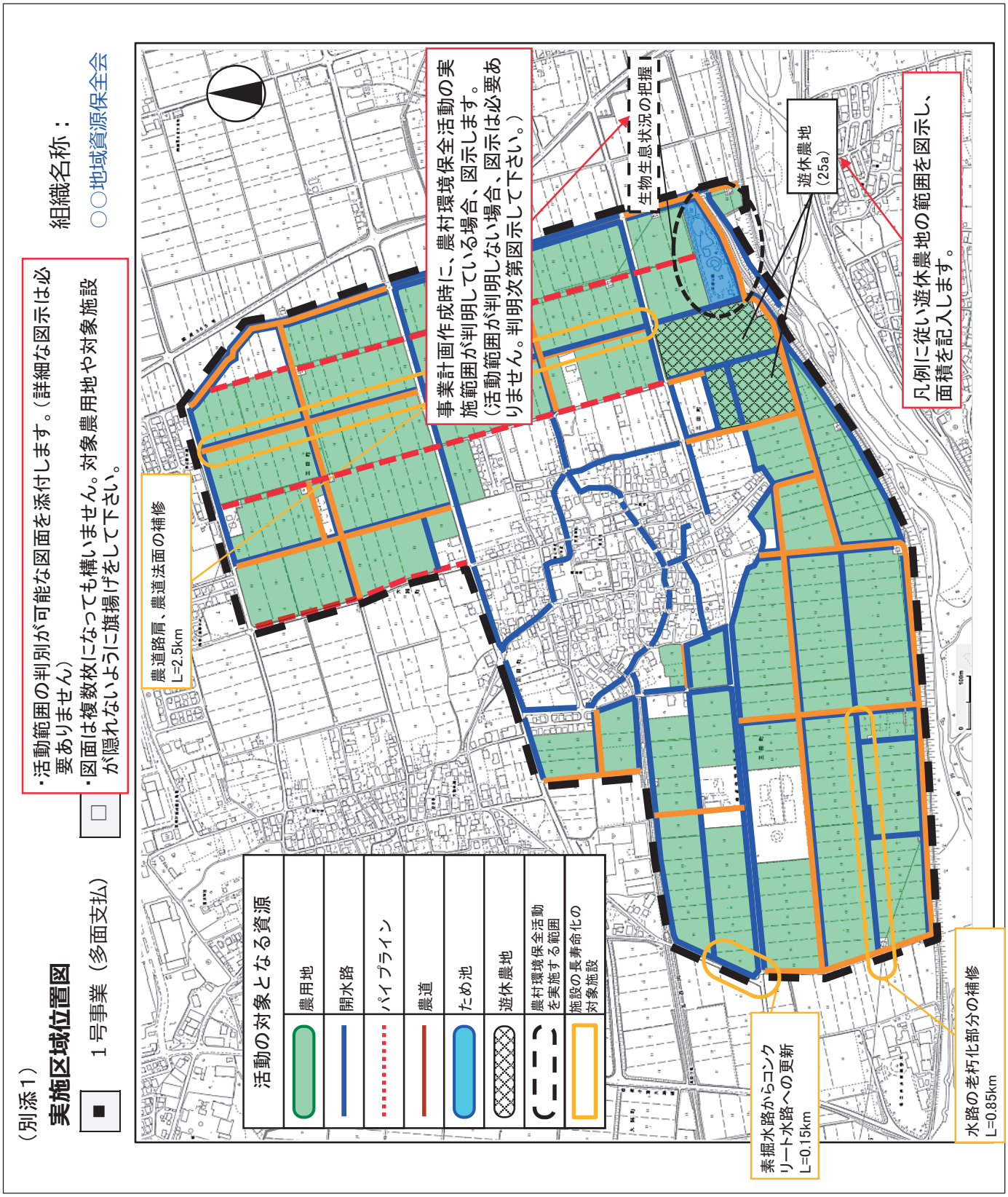
※　延長は、小数点以下第１位まで記入する。

・認定農用地の区域内において、共同活動による保全管理活動等を実施する施設量を記入します。
・下段欄には、上段の数量の内数として資源向上活動（長寿命化）を実施する対象施設の量を記入します。
・農地維持支払交付金又は資源向上支払交付金（共同）を活用して資源向上活動（長寿命化）を行う場合も「うち、施設の長寿命化の対象施設」欄に記入します。

（3）実施区域位置図

活動範囲が判別可能な図面に、活動の対象となる全ての農用地及び農業用用排水路、農道等の施設を図示します。

また、「Ⅰの２　実施区域内の農用地、施設」の欄に遊休農地が位置づけられている場合は、この範囲を図示し面積を記入します。



(4)組織構成員一覧

別添2「構成員一覧」のとおり

※多面的機能支払のみに取り組む場合は、活動組織規約の別紙「構成員一覧」（P.11）に代えることができます。

（別添２）

構成員一覧

「役職名」欄には活動組織における役職名を記入します。

構成員が団体の場合は、代表者名もしくは団体名を記入してください。

「分類番号」欄には左下の多面的機能支払分類番号リストから該当する番号を選び記入します。

活動組織の事務所を設置している場合は事務所の所在地を、事務所がない場合は代表者の住所を記入します。

役職名	氏名（代表者名、団体名）	住所	多面的機能支払		中山間地域等直接支払		
				分類番号	分類記号	年齢分類記号	
代表	多面　太郎	○○県△△市○町○－○－○	○	1	A	カ	
副代表	多面　花子	○○県△△市○町○○	○	1	A	カ	

多面的機能支払分類記号リスト

農業者	個人として参加	1	農業者個人
	団体として参加	2	農事組合法人
		3	営農組合
		4	その他の農業者団体
農業者以外	個人として参加	5	農業者以外個人
	団体として参加	6	自治会
		7	女性会
		8	子供会
		9	土地改良区
		10	JA
		11	学校・PTA
		12	NPO
		13	その他の農業者以外団体

中山間地域等直接支払分類記号リスト

農業者（人）	A	交付農用地を持つ農業者
	B	交付農用地を持たない農業者
法人	C	農地所有適格法人
	D	特定農業法人
	E	その他法人（NPO法人、公益法人等）
農業生産組織	F	機械・施設共同利用組織
	G	農作業受委託組織
	H	栽培協定
	I	その他の組織
その他	J	土地改良区
	K	水利組合
	L	非農業者（人）
	M	その他

年齢分類記号リスト

ア	39歳以下
イ	40～44歳
ウ	45～49歳
エ	50～54歳
オ	55～59歳
カ	60～64歳
キ	65～69歳
ク	70～74歳
ケ	75～79歳
コ	80歳以上

注１：「多面的機能支払」及び「環境保全型農業直接支払」の欄は、各支払に取り組む者に○印を記入。
「中山間地域等直接支払」の欄は、署名。

注２：多面的機能支払に取り組む場合は、「分類番号」を分類番号リストの１～１３から選択。

注３：「農業者」とは、協定に位置付けられている農用地において農業生産活動等（多面的機能支払においては、耕作又は養畜）を実施する農業者又は団体である。

注４：中山間地域等直接支払の場合には、「分類記号」を分類記号リストのA～Mから選択するとともに、「年齢分類記号」を年齢分類記号リストのア～コから選択。

注5：他の市町村で環境保全型農業直接支払を実施している場合は、その市町村名を全て記載すること。

(5)全体面積及び多面的機能支払と中山間地域等直接支払との重複面積

認定農用地の区域内において、中山間地域等直接支払交付金の集落協定がなされている面積を把握します。

重複する区域がある場合は、活動が重複しないように注意してください。

５．多面的機能支払と中山間地域等直接支払との重複面積

重複面積（多面支払・中山間直払）
100 a

資源向上活動（共同）に取り組む場合には、中山間地域等直接支払交付金の「多面的機能を増進する活動」で選択している活動以外の活動を実施する。

※　多面支払の活動計画書及び中山間直払の集落協定に位置づけられている施設等については、多面支払の活動組織により活動を実施し、また、多面支払の交付金を充てることとする。

＜施行注意＞
計画書の変更の際には、容易に比較対照できるよう変更部分を二段書きとし、変更前を（　）書で上段に記載するものとする。

（別紙1）多面的機能支払に係る活動計画書（1号事業様式）

Ⅱ．1号事業（多面的機能支払）

（1）交付金額

農地維持支払交付金、資源向上支払交付金のそれぞれの対象農用地面積に地目別の交付単価を乗じて、年当たり交付金額を算出します。（交付単価は、市町村に確認して下さい。）

平成３０年度・令和元年度・令和3年度に拡充された加算措置を受けようとする場合は、別途「4．加算措置」の様式を使用し、加算措置分を26～28ページに示す方法で算出して整理します。

1．交付金額　※複数の交付単価がある場合には、行を追

各支払の中で複数の交付単価が適用される場合には、それぞれ行を追加して記入します。

（1）農地維持支払

地目	対象農用地面積	交付単価		年当たり交付金額
田	4,600 a	3,000	円/10a	1,380,000円
畑	900a	2,000	円/10a	180,000円
草地	a		円/10a	円
この線より上に行を挿入してください。				
合計	5,500a			1,560,000円

※対象農用地面積とは、交付金の算定の対象となる農用地の面積のことです。小数点以下を切り捨て、整数で記入してください。

★活動期間中に、田から畑への地目の変更が生じた場合は下記に記入し、市町村に提出してください。農地維持支払の単価が活動終了年度まで田の単価となります。

地目を田から畑に変更する面積　25 a

加算措置は別途「4．加算措置」の様式に整理します。

（2）資源向上支払（共同）

地目	対象農用地面積	交付単価		年当たり交付金額
田	4,575a	1,800	円/10a	823,500円
畑	925a	1,080	円/10a	99,900円
草地	a		円/10a	円
この線より上に行を挿入してください。				
合計	5,500a			923,400円

※多面的機能の増進活動に取り組まない場合は、単価に5/6を乗じた額を記入してください。

（3）資源向上支払（長寿命化）

地目	対象農用地面積	交付単価		年当たり交付上限額
田	4,575a	4,400	円/10a	2,
畑	925a	2,000	円/10a	
草地	a		円/10a	円
この線より上に行を挿入してください。				
合計	5,500a			2,198,000円

※広域活動組織となるための規模要件を満たさない場合、かつ直営施工を実施しない場合は、単価に5/6を乗じた額を記入してくださ

広域活動組織の規模を満たさない場合、長寿命化の交付上限は、保全管理する区域内に存在する集落数に200万円を乗じた額と交付単価に対象農用地面積を乗じた額の小さい額となります。

広域活動組織となるための規模要件を満たさない場合は○　⇒　○

集落数×200万円　6,000,000円

資源向上支払（長寿命化）は、交付上限額を記入します。
この交付上限額以内で施設の長寿命化のための活動に必要な金額により交付申請を行うものとします。

交付額の算定

【交付単価】

単位：円/10a

地目	農地維持支払交付金	資源向上支払交付金（共同）		資源向上支払交付金（長寿命化）	
	①	②	③ =②*5/6	④	⑤ =④*5/6
田	3,000 （※1 2,400）	1,800	1,500	4,400	3,666
畑	2,000 （※1 1,600）	1,080	900	2,000	1,666
草地	250 （※1 200）	180	150	400	333

①：事業計画期間中に地目を変更した場合、当該期間中においては、地目変更前の単価を適用する。

③：多面的機能の増進を図る活動に取り組まない場合は、②に5/6を乗じた額を交付単価とする。

⑤：広域活動組織となるための規模要件を満たさず、かつ、直営施工を実施しない活動組織にあっては、④に5/6を乗じた額を交付単価とする。

※1：特別な事情により基本単価の採用が困難である場合、市町単位で8割の単価の採用も可能としております。

加算措置についてはP26～28を参照してください。

【交付額の算出方法】

（1） 対象農用地面積に地目別の交付単価を乗じて算出します。

（算定例）

対象農用地面積　田：5,000.4a、畑：4,999.6a

○ 対象農用地面積の端数処理

田：5,000.4a → 5,000a（小数第一位切り捨て）

畑：4,999.6a → 4,999a（小数第一位切り捨て）

○ 農地維持支払交付金の交付額の算出

田：5,000a×3,000 円/10a＝1,500,000 円

畑：4,999a×2,000 円/10a＝ 999,800 円

計：2,499,800 円

（2）資源向上支払交付金（長寿命化）について、広域活動組織となるための規模要件を満たさない活動組織にあっては、以下a又はbのいずれか小さい額を年交付金額の上限とします。

a. 上表④又は⑤の交付単価に対象農用地面積を乗じて得た額

b. 保全管理する区域内に存在する集落数に200 万円を乗じて得た額

（算定例）

対象農用地面積15,000a（=150ha）（畑）で、直営施工を実施しない1集落で構成される活動組織

○ 資源向上支払交付金（長寿命化）の交付上限額の算出

a. 15,000a×1,666 円/10a＝2,499,000 円

b. 1集落×2,000,000 円＝2,000,000 円

の小さい額である2,000,000 円を年交付金額の上限とする。

（2）組織の広域化・体制強化の計画

広域活動組織の設立又は活動組織の特定非営利活動法人化（NPO法人化）のための支援を受けようとする場合は、その実施予定年度を記入します。

2．組織の広域化・体制強化の計画　（計画がない場合、この項目への記入は不要です）

	広域活動組織の設立	特定非営利活動法人化
実施予定年度	令和　　年度	令和　　年度

※「特定非営利活動法人」とは、営農法人とは別に多面的活動に関与する法人のことです。

組織の広域化・体制強化に対する支援を受ける場合は、「4．加算措置」の様式を記入して下さい。

この欄は、市町村担当者と相談及び確認の上、組織の情報を記入して下さい。

以下は市町村担当者と相談の上、記入してください。

集落数　3集落　← 農林水産省HP「農業集落境界データ」参照

農業地域類型　□ 都市的地域　○ 平地農業地域　□ 中間農業地域　□ 山間農業地域

地域振興立法の適用　□ 特定農山村　□ 振興山村　□ 過疎　□ 半島　□ 離島　□ 沖縄　□ 奄美群島　□ 小笠原諸島

指定棚田地域の該当状況　□

保全管理する区域内における田園風景百選認定地の有無　□ 有　○ 無　認定地名

「とちぎの元気な子ども育て隊」の宣言の有無　□ 有　○ 無

(3)活動の計画

(1)農地維持支払

農地維持支払のうち地域資源の基礎的保全活動は、「点検・計画策定」と「研修」、「実践活動」で構成されます。

これらの活動については、活動に該当する全ての項目を実施します。ただし、対象となる施設が存在しない活動項目は除きます。

毎年度全ての活動項目を実施します。
（研修、異常気象時の対応を除きます）

3．活動の計画

（1）農地維持支払

※実施する月に〇を記入してください。

活動区分		活動項目	毎年度の実施時期											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
点検・計画策定		1　点検	〇											
		2　年度活動計画の策定	〇											
		担い手農家との話し合い	〇											
研修		3　事務・組織運営等に関する研修、機械の安全使用に関する研修	事務・組織運営等に関する研修･･･令和5年度に受講予定 機械の安全使用に関する研修･･･令和6年度に受講予定 （活動期間内に各１回以上受講）											
実践活動	農用地	4　遊休農地発生防止のための保全管理												
		5　畦畔・法面・防風林の草刈り												
		6　鳥獣害防護柵等の保守管理	点検結果に応じて実施時期を決定											
		100 機械除草部分の拡大（農用地）												
	水路	7　水路の草刈り			〇	〇								
		8　水路の泥上げ	〇											
		9　水路附帯施設の保守管理	点検結果に応じて実施時期を決定											
		101 機械除草部分の拡大（水路）												
		102 土水路の維持・管理												
		103 水路内の隠れ場確保												
	農道	10　農道の草刈り				〇	〇							
		11　農道側溝の泥上げ	点検結果に応じて実施時期を決定											
		12　路面の維持	点検結果に応じて実施時期を決定											
		104 機械除草部分の拡大（農道）												
	ため池	13　ため池の草刈り												
		14												
		15												
		10												
	共通	16　異常気象時の対応	洪水、台風、地震等の発生後											
地域資源の適切な保全管理のための推進活動									〇			〇		

全ての対象組織で、活動期間内に1回以上実施する必要があります。

※栃木県は生態系保全活動が必須要件です。農地維持支払活動交付金のみを受けて活動する組織は活動項目100～105のいずれかの取組が必須となります。

（P.22を参照）5年間で実施する予定の「地域資源の適切な保全管理のための推進活動」の項目を複数選択する場合などは、実施時期に「〇」を記入してください。

「6 鳥獣害防護柵等の保守管理」「9 水路附帯施設の保守管理」「15 ため池附帯施設の保守管理」等に係る対象施設がない場合は“対象施設なし”あるいは“－”と記載

地域資源の適切な保全管理のための推進活動

担い手農家への農地集積の加速化や過疎化・高齢化等の農村地域の構造変化に対応し、農用地、水路等の地域資源を適切に保全管理するための目標を定めます。（構造変化に対応した保全管理目標）

目標に基づき、地域ぐるみで取り組む保全管理の内容及びそれを推進していくための活動を定めます。（地域資源の適切な保全管理のための推進活動）

それらの取組の適切な実施や確実な効果発現を図るため、活動の達成状況等を市町村により点検・評価するとともに、活動の実施を通じて、活動期間中に「地域資源保全管理構想※」をとりまとめる必要があります。

※地域資源保全管理構想とは。

「地域資源保全管理構想」とは、それぞれの地域で守ってきた農用地や水路、農道等の地域資源を将来にわたってどのように引き継いで行けば良いのかを地域で話し合い、今後の課題や取り組むべき活動・方策について、活動期間中に構想としてとりまとめるものです。（P.56～68参照）

地域資源の適切な保全活動のための推進活動について、様式中の各項目についてあてはまるものを選択して「○」を記入します（複数選択可）

地域資源の適切な保全管理のための推進活動について、１）～４）を記入してください。

１）保全管理の目標を①～⑥から選んでください。（複数選択可）

○	①中心経営体との役割分担による保全管理		④集落間連携や広域的活動による保全管理
	②集落営農組織を基礎とした地域ぐるみの保全管理	○	⑤多様な地域資源管理の担い手による保全管理
	③地域外の経営体との協力・役割分担による保全管理		⑥その他

２）今後、地域で取り組んでいくべき保全管理の内容を①～⑤から1項目以上選んでください。

○	①農地の利用集積に伴う管理作業		④共同利用施設の保全管理
○	②高齢農家の農用地に係る管理作業		⑤その他
○	③不在村地主等の遊休農地に係る管理作業		

３）２）で選んだ内容に取り組むため、今後進めていく取組の方向性を①～⑦から1項目以上選んでください。

○	①担い手の人材・機材の有効活用、連携強化		⑤不在村地主との連絡・調整体制の構築
○	②入り作等の近隣の担い手との協力		⑥集落間の連携や広域的な活動
○	③地域住民、土地持ち非農家等を含めた体制		
	④新たな保全管理の担い手の確保		

番号はP.69の活動項目番号表に示す一連の番号になっています。

４）２）で選んだ内容に取り組むため、毎年実践する取組を17～23から1項目以上選んでください。

○	17. 入り作農家や土地持ち非農家を含む農業者の検討会の開催		21. 地域住民等に対する意向調査、地域住民等との集落内調査
	18. 農業者に対する意向調査、農業者による現地調査		22. 有識者等による研修会、検討会の開催
	19. 不在村地主との連絡体制の整備、調整等		23. その他
	20. 集落外の住民・組織や地域住民との意見交換・ワークショップ・交流会の開催		

本推進活動については、農地維持支払交付金の交付を受けて農地維持活動に取り組む場合には必ず実施します。

（2）資源向上支払

①地域資源の質的向上を図る共同活動

地域資源の質的向上を図る共同活動は、「１）施設の軽微な補修」、「２）農村環境保全活動」、「３）多面的機能の増進を図る活動」の３つで構成されます。

- 「１）施設の軽微な補修」の活動は、事業計画に位置づけた施設に該当するすべての項目を実施する必要があります。（点検や機能診断の結果、実施する必要性がない実践活動については、この限りでありません。）
- 「２）農村環境保全活動」の活動は、都道府県が策定する要綱基本方針に定められたテーマについて１つ以上を選択し、テーマに該当する活動を毎年度１つ以上実施します（P.66の取組番号表に５つのテーマが活動項目の内訳として示されています）。
- 「３）多面的機能の増進を図る活動」への取組は任意とし、取り組まない場合の交付単価は、基本単価に5/6を乗じた額になります。

資源向上支払の活動は農地維持支払交付金での実施が可能です。

（２）資源向上支払（共同）

１）施設の軽微な補修、農村環境保全活動

※実施する月に〇を記入してください。

活動区分		活動項目	毎年度の実施時期											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設の軽微な補修	機能診断・計画策定	24　農用地の機能診断	○											
		25　水路の機能診断	○											
		26　農道の機能診断	○											
		27　ため池の機能診断												
		28　年度活動計画の策定	○											
	研修	29　機能診断・補修技術等に関する研修	令和５年度に受講予定（活動期間内に１回以上受講）											
	実践活動	30　農用地の軽微な補修等	機能診断結果に応じて実施時期を決定											
		31　水路の軽微な補修等	機能診断結果に応じて実施時期を決定											
		32　農道の軽微な補修等	機能診断結果に応じて実施時期を決定											
		33　ため池の軽微な補修等												
農村環境保全活動	計画策定	34　生物多様性保全計画の策定		○										
		35　水質保全計画、農地保全計画の策定												
		36　景観形成計画、生活環境保全計画の策定		○										
		37　水田貯留機能増進計画、地下水かん養活動計画の策定												
		38　資源循環計画の策定												

機能診断の結果に応じて、必要な活動を毎年度実施します。

1テーマ以上の取組を行うこととし、その実施時期を「〇」で示します。
※栃木県は生態系保全活動が必須要件です。

活動区分		活動項目	毎年度の実施時期	
			4月	5月
農村環境保全活動	実践活動	39 生物の生息状況の把握（生態系保全）		
		45 植栽等の景観形成活動（景観形成・生活環境保全）		○
		この線より上に行を挿入してください。		
	啓発・普及	51　啓発・普及活動		

選択したテーマに基づき行う実践活動についてはP.71の活動項目番号表からあてはまる「活動項目番号」と「活動項目」を選択し記入します。
※エクセル様式ではプルダウンで取組を選択して入力します。

行が足りない場合は追加してください。

2）多面的機能の増進を図る活動　（任意の取組）　★実施する月に

「多面的機能の増進を図る活動」に取り組まない場合は、資源向上支払（共同）の単価は基本単価の5/6になります。

活動区分	活動項目	4月	5月	6月	備考
多面的機能の増進を図る活動	52　遊休農地の有効活用				
	56　農村環境保全活動の幅広い展開				
	57　やすらぎ・福祉及び教育機能の活用			○	
この線より上に行を挿入してください。					
	60　広報活動・農的関係人口の拡大				

P.71の活動項目番号表からあてはまる「活動項目番号」と「活動項目」を選択し記入します。
※エクセル様式ではプルダウンで活動項目を選択して入力します。

行が足りない場合は追加してください。

※増進を図る活動を実施する場合は、取組内容を選択した上で、広報活動・農的関係人口の拡大を毎年度実施してください。ただし、農業地域類型区分の「中間農業地域」または、「山間農業地域」、地域振興立法8法地域に該当する場合は、実施を必ずしも求めるものではありません。

※増進を図る活動を実施する場合は、活動項目を選択した
さい。
ただし、農業地域類型区分の「中間農業地域」または「山間農業地域」、地域振興立法８法地域においては広報活動は必須ではありません。

※エクセル様式ではプルダウンで内容を選択して入力します。

56．農村環境保全活動の幅広い展開　を選択

56．を選択した場合に選択⇒　○　農村環境保全活動を１テーマ追加　「高度な保全活動の実施」

農村環境保全活動のテーマ　景観形成・生活環境保全　高度な保全活動の活動項目

↑「生態系保全」「水質保全」「景観形成・生活環境保全」、「水田貯留機能増進・地下水かん養」「資源循環」から選択

「56．農村環境保全の幅広い展開」を選んだ場合は、様式の説明に従って必要な内容を記入します。

（3）施設の長寿命化のための活動

施設の長寿命化のための活動は、機能診断結果に基づき、地域で施設の状況等を勘案した上で、必要な活動に計画的に取り組みます。

工事１件当たり200万円以上となることが明らかな場合、都道府県の要綱基本方針に基づき、様式第１－４号「長寿命化整備計画書」を作成します。

※　農地維持支払又は資源向上支払（共同）の交付金を活用して行う施設の長寿命化のための活動について

活動計画書に定めた農地維持活動及び資源向上活動（共同）を適切に実施することを前提とし、農地維持支払又は資源向上支払（共同）の交付金を活用して施設の長寿命化のための活動を実施することができます。この場合、以下に留意して下さい。

- 活動計画書に施設の長寿命化のための活動を位置付ける。
- 費用の支出の有無に関わらず、実施した全ての活動について活動記録に記載する。

（３）資源向上支払（長寿命化）

工事１件当たり200万円以上となることが明らかな場合は、様式第１－４号「
添付してくだ　それぞれを１
※延べ数量の

P.15のⅠの2「実施区域内の農用地、施設」の値の内数です。数字は小数点以下2桁まで記入します。

P.72の活動項目番号表からあてはまる「活動項目番号」と「活動項目」を選択し記入します。

施設区分	活動項目	内容	延べ数量（単位はkmか箇所を選択）	年度計画 1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
水路	61　水路の補修	用水路の老朽化部分の目地補修を行う	0.10　km	○	○			
水路	62　水路の更新等	土水路からコンクリート水路への更新	1.20　km			○	○	○
水路	63　農道の補修	農道の路肩及び法面の補修	0.60　km					
この線より上に行を挿入してください。								

実施予定年度に「○」を記入します。この計画に基づき活動を実施します。

行が足りない場合は追加してください。

☆直営施工の実施方針について　　全て直営施工　○　一部直営施工　　直営施工は実施しない

☆上記以外に農業の多面的
記載してください。（別紙

※直営施工とは、活動組織が自ら施設の補修等を全て又は一部実施することです。該当するものに「○」を記入します。

工事１件あたり200万円以上の工事がある場合、該当する工事については「長寿命化整備計画」の作成が必要です。

（様式第１－４号）
【活動組織から市町村に提出するもの】

組織名：○○地

長寿命化整備計画書

＜留意事項＞
活動計画書の資源向上支払（長寿命化）において、工事１件あたり200万円以上となることが明らかな活動について、下記に記載してください。
なお、１つの活動を分けて実施する場合は、それぞれを１件として考え、１件ずつ記載してください。
また、概算事業費の根拠となる資料（積算根拠や見積書）を整理してください。

延長はkm単位で小数点以下2桁まで記入します。

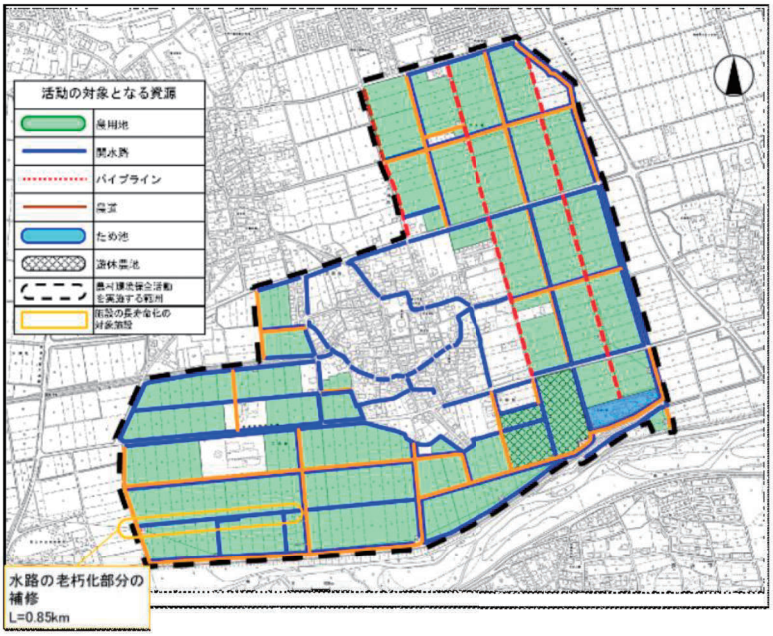
（１） 施設の機能診断結果及び長寿命化対策の計画等

番号	施設名	設置年度	改修年度	施設の概要	機能診断結果（劣化状況等）	長寿命化対策の内容	数量	実施年度	工事１件あたりの概算事業費	備考
1	○○用水路	不明	－	土水路 幅○○mm	水路の裏面の崩壊や土砂の堆積により通水機能が喪失。清掃や泥上げなどの日常管理が困難である。	コンクリート水路として更新する。	0.10km	令和3年度	280万円	
2	○○用水路	昭和41年	昭和60年	コンクリート水路 幅○○mm	ひび割れや部分的な欠損、側壁の倒壊があり、水路の一部区間が破損している。	シーリング財投を塗布してひび割れを被覆する。	0.02km	令和3年度	230万円	
3	○○揚水機	昭和50年代	－	ゲート 幅　○○mm 高さ○○mm	経年変化による戸当りの金物の腐食及び水密ゴムの劣化が見られる。	補修材及び塗料を塗布。 水密ゴムを交換。	1箇所	令和4年度	210万円	

※　改修年度欄には、施設の改修又は災害復旧等によって更新が行われた最近の年度を記入してください。
※　延長は小数点以下第２位まで、概算事業費は10万円単位で記入してください。

（２）　施設の位置図

対象施設の位置図を添付し、長寿命化対策を行う施設について、活動内容、数量等を記載すること。



・これは加算措置の「農地維持支払の小規模集落支援」に取り組む場合の記入例です。取り組む加算措置に応じて様式を記入して活動計画書に添付してください。
・加算措置に取り組まない場合は様式の提出は不要です。

４．加算措置

加算措置に取り組む場合は以下を記入してください。取り組

対象農用地面積は小数点以下を切り捨て、整数で記入してください。

（１）農地維持支払の小規模集落支援

地目	対象農用地面積	交付単価	年当たり交付金額
田	900a	1,000 円/10a	90,000円
畑	190a	600 円/10a	11,400円
草地	a	80 円/10a	円
合計	1,090a		101,400円

小規模集落数	集落名
2集落	○集落、○集落

★小規模集落支援の適用条件

○小規模集落の総農家戸数が10戸以下である

○小規模集落がこれまでに農地・水・環境保全向上対策、農地・水保全管理支払、多面的機能支払の交付対象になっていない

加算措置の適用条件を確認して様式に必要事項を記入してください。

加算措置

加算措置を受ける場合は、活動計画書に「4. 加算措置」の様式を添付して下さい。

（1）農地維持支払の小規模集落支援（平成30年度拡充）

平成30年度までに事業計画の認定（変更や再認定も含む）を受け、令和元年度以降に計画変更されていない活動組織が、小規模集落を取り込み、集落間で連携して保全管理を行う場合、農地維持支払交付金に、新たに取り込んだ農用地面積に応じた加算を行います。

なお、1小規模集落当たりの加算上限額は20万円、活動組織当たりの合計加算上限額は40万円となります。

（2）資源向上支払（共同）の多面的機能の更なる増進に向けた活動への支援（令和元年度拡充）

組織が多面的機能の増進を図る活動の活動項目を増加させる場合、資源向上支払交付金において単価の加算を行います。新たに本活動に取り組む場合は、2つ以上の活動項目が必要です。

【加算対象となる例】

直近の活動計画 活動項目数0 → 新たな活動計画 活動項目数2以上

直近の活動計画 活動項目数1 → 新たな活動計画 活動項目数2以上　等

【加算対象とならない例】

直近の活動計画 活動項目数0 → 新たな活動計画 活動項目数1

直近の活動計画 活動項目数2 → 新たな活動計画 活動項目数2以下　等

（2）資源向上支払（共同）の多面的機能の更なる増進に向けた活動への支援

適用条件の確認

多面的機能の増進を図る活動の活動項目数

↓ 活動を継続中の組織のみ記入

項目	本事業計画の取組	前年度又は変更前の取組
遊休農地の有効活用	○	
鳥獣被害防止対策及び環境改善活動の強化		
地域住民による直営施工		
防災・減災力の強化		
農村環境保全活動の幅広い展開	○	○
やすらぎ・福祉及び教育機能の活用		
農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化		
都道府県、市町村が特に認める活動		

活動を継続中の組織のみ記入します。

新たな活動計画において、実施する増進活動の取組に○を記入してください。

（3）資源向上支払（共同）の農村協働力の深化に向けた活動への支援（令和元年度拡充）

組織が下記の要件を満たした場合、資源向上支払交付金において単価の加算を行います。

【役員に女性が2名以上選任されていない場合】①、②、③

【役員に女性が2名以上選任されてる場合】①、②、④

①多面的機能の更なる増進に向けた活動への支援を受けること

②農業者以外の参画割合が4割以上であること

③構成員の総人数の8割以上が参加する実践活動を実施すること

④構成員の総人数の6割以上が参加する実践活動を毎年度2種以上それぞれ別の日に実施すること

構成員の総人数がわかる一覧表等の提出が必要です。

【加算単価】

単位：円/10a

地目	農地維持支払 小規模集落支援	資源向上支払（共同） 多面的機能の更なる増進に 向けた活動への支援	資源向上支払（共同） 農村協働力の深化に 向けた活動への支援
田	1,000	300	300
畑	600	180	180
草地	80	30	30

組織の広域化・体制強化に係る支援を受ける場合は、活動計画書に「4. 加算措置」の様式を添付してください。

（4）組織の広域化・体制強化に係る支援（令和元年度拡充）

活動組織が広域化・体制強化を行う場合、広域化組織の面積規模別に交付額を分けるとともに、活動計画期間にわたる継続的な支援を行います。

なお、特定非営利法人化（NPO法人化）に取り組む場合は、都府県における200ha以上と同じ交付額になります。

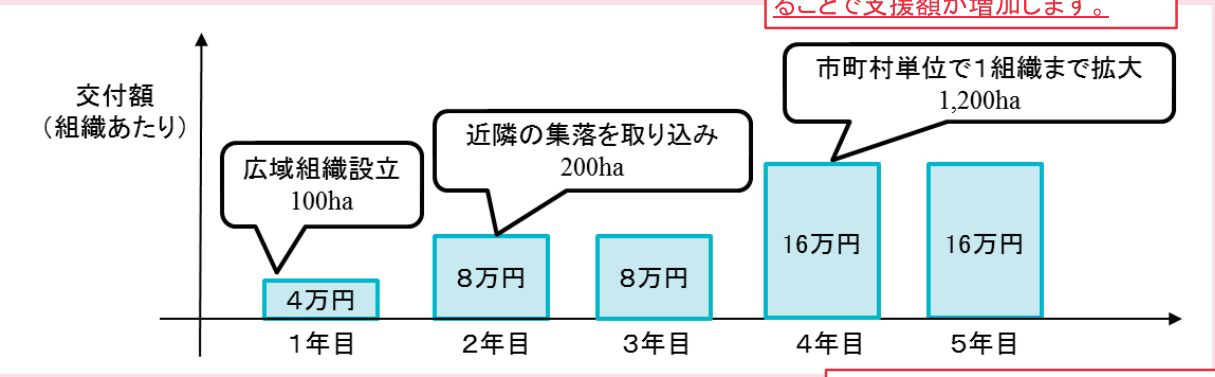
面積は全て農地維持支払の認定農用地面積を対象とします。

広域活動組織の面積規模別の交付額

都府県	交付額
3集落以上または50ha以上	4万円/年・組織
200ha以上	8万円/年・組織
1,000ha以上	16万円/年・組織

【段階的に広域化する場合の適用例】

広域活動組織が面積規模を拡大することで支援額が増加します。



広域活動組織が面積規模を拡大した場合は該当する区分に変更して活動計画書の再申請を行って下さい。

（4）組織の広域化・体制強化に対する支援

区分	交付単価	該当するものに○
3集落以上 又は50ha以上200ha未満	40,000 円/組織	○
200ha以上1,000ha未満 又は特定非営利活動法人	80,000 円/組織	
1,000ha以上	160,000 円/組織	

※北海道にあっては、3集落以上又は1,500ha以上3,000ha未満のとき40,000円／組織、3,000ha以上15,000ha未満又は特定非営利活動法人のとき80,000円／組織、15,000ha以上のとき160,000円／組織に置き換える。

※特定非営利活動法人の加算措置を受ける場合は、特定非営利活動促進法第13条第２項の登記事項証明書の写しを提出してください。

加算措置を受ける場合は、活動計画書に「4. 加算措置」の様式を添付してください。

（5）水田の雨水貯留機能の強化（田んぼダム）を推進する活動への支援（令和3年度拡充）

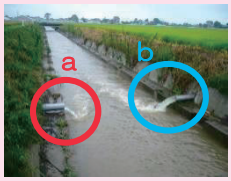
大雨時に河川や水路の水位の急上昇を抑えることで下流域の湛水被害リスクを低減させることを目的に、水田の落水口に流出量を抑制するための排水調整板を設置する等して雨水貯留能力を人為的に高める取組である「田んぼダム」に一定の要件を満たして取り組む場合、資源向上支払（共同）に単価の加算を行います。

資源向上支払（共同）の加算単価（円/10a）

	栃木県
田	300

※農地・水保全管理支払の取組を含め資源向上支払（共同） を5年間以上実施、または長寿命化のための活動に取り組む地区は単価に0.75を乗じた額になります。
※要件を満たす限り、加算措置は次期の事業計画期間においても適用されます。

＜流出を抑制する落水量調整装置の例＞



a　田んぼダム実施
b　田んぼダム未実施

＜加算措置の要件＞

①事業計画の作成・変更

・市町村が策定する水田貯留機能強化計画に基づき、田んぼダムの実施面積、年度別計画及び位置図を様式第１－３号の事業計画書に記載する必要があります。
・農村環境保全活動のうち「水田貯留機能増進・地下水かん養」または多面的機能の増進を図る活動のうち「防災・減災力の強化」のいずれかを活動項目に位置付けて取り組む必要があります。

②実施面積の考え方

事業計画最終年度までに次のいずれかの条件を満たす必要があります。
(a)資源向上支払（共同）の交付を受ける田面積全体のうち5割以上で活動に取り組むこと
(b)広域活動組織にあっては、加算措置に取り組む集落毎に、交付を受ける田面積全体のうち5割以上で活動に取り組むこと

＜加算対象面積の考え方＞

加算措置の要件①及び②を満たす場合、この加算措置に取り組む初年度から、当該活動を実施する活動組織の対象農用地面積のうち田面積全体を加算対象面積とします。

a　実施期間

開始年度	最終年度
令和４　年度	令和８　年度

b　実施計画

年度	年次計画・実施体制等
令和４　年度	構成員に田んぼダムについて周知を行う。運営委員会が中心となり、田んぼダム実施体制を確立する。資源向上支払（共同）対象農用地のうち10%で田んぼダムを実施する。
令和５　年度	資源向上支払（共同）対象農用地のうち30%で田んぼダムを実施する。
令和６　年度	資源向上支払（共同）対象農用地のうち50%で田んぼダムを実施する。
令和７　年度	資源向上支払（共同）対象農用地のうち55%で田んぼダムを実施する。
令和８　年度	資源向上支払（共同）対象農用地のうち60%で田んぼダムを実施する。

面積が一致しているか確認して下さい。

c　最終年度における実施面積及び加算額

地目	全対象農用地面積	うち、実施面積	交付単価	年当たりの加算額	実施面積の割合
田	10,000a	6,000a	300　円/10a	300,000円	60%

（参考）広域活動組織における集落ごとの実施面積と割合

集落名	対象農用地面積	うち、実施面積	実施面積の割合	備考
A	3,000　a	2,000　a	67%	
B	2,000　a	1,000　a	50%	
C	4,000　a	2,400　a	60%	
D	1,000　a	600　a	60%	

6. 総会の開催

多面的機能支払交付金の実施に関する事項は総会で決定し、議決事項は活動組織の構成員全員に周知する必要があります。

（設立総会）
はじめに設立総会を開催し、作成した規約（案）、役員（案）、事業計画（案）等の活動組織の設立、活動に関する事項を議題として審議し、議決を得る必要があります。

（通常総会）
通常総会は、毎年度１回以上開催する必要があります。

（臨時総会）
通常総会のほかに、次に掲げる場合に開催する臨時総会があります。
- 構成員現在数の３分の１以上から、会議の目的たる事項を示した書面により請求があったとき。
- 監査役が不正な事実を発見し、報告するために招集したとき。
- その他代表が必要と認めたとき。

いずれの総会も、構成員現在数の過半数の出席（委任状を含む）がなければ成立しません。

総会開催から議決までのながれ

1）あらかじめ役員会等で話し合い、総会の審議事項、開催日、開催方法（対面、書面、オンライン等）等について設定します。審議事項は、活動計画の作成又は変更、収支決算及び実施計画に関すること等の活動組織の運営に関する重要な事項等となります。

2）総会の招集を行います。招集にあたっては、規約で定める日までに（規約例では、開催の７日前まで）、書面にて会議の日時、場所、オンライン開催の場合は、招待ID等の案内方法、目的、審議事項を構成員に通知します。

3）総会は、構成員現在数の過半数の出席をもって成立します。開会前に出席者数の確認を行います。なお、出席は委任状をもって代えることができます。
議事は、出席した構成員の過半数（特別議決事項にあっては３分の２以上）で決します。
議決前に議案説明、質疑応答を行った上で採決を行って下さい。

4）活動事項を構成員全員の承知のもとで実施するため、総会閉会後速やかに、規約で定める方法により（規約例では、総会で決定した事項を記載した書面を作成して、その写しを構成員全員に配布する）構成員全員に確実に周知します。

総会の開催、議決に当たっての留意点

- 総会は、規約に基づいて行われます。規約制定時に構成員で話し合い、総会の議決方法等について地域の事情に応じて適切に定めて下さい。
- 採決にあたっては、挙手や起立等の賛成者数を把握できる方法で行い、賛成者数、反対者数を把握し、議決の可否を確認して下さい。また、議事録に議案ごとの賛成者数を記録して下さい。
- 総会資料や議事録は、実施状況報告の根拠資料ともなりますので、適切に記録し、５年間保管して下さい。
- 総会を欠席された方へも、記録を書面配布するなどにより、総会の議決事項の周知を行ってください。

II 事業計画の認定

多面的機能支払交付金の活動の取り組みに当たり、事業計画書（案）を作成し、市町村長に提出して、認定を受ける必要があります。

多面的機能支払交付金の活動を実施しようとする場合には、事業計画書（案）に活動計画書及び規約を添付し、市町村長に提出し、その審査を受けます。

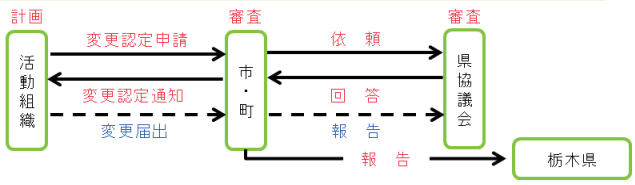
事業計画が認定されると、市町村長から事業計画の認定通知書が送付されます。

事業計画書（案）に添付する書類は以下のとおりです。 事業計画書の様式は12ページへ

その他、市町村長の審査に当たり、設立総会の議事録等が必要となる場合があります。 提出資料は市町村にお問い合わせください。

	添付書類		提出時期
農地維持支払交付金	・活動計画書 様式は14ページへ ・規約 様式は7ページへ		活動を開始しようとする年度の6月30日まで。 （特別な事情がある場合、市町村長が都道府県知事を通じて、地方農政局等に対して届出を行ったときには、当該年度の10月31日まで）
資源向上支払交付金（共同）			
資源向上支払交付金（長寿命化）		・長寿命化整備計画書 （長寿命化で1工事当たり200万円以上の工事がある場合） 様式は25ページへ	
資源向上支払交付金（組織の広域化・体制強化）	【広域活動組織の設立】 （別途、市町村との間で広域協定を締結） 【組織のNPO法人化】 ・登記事項証明書		登記事項証明書は事業計画申請時又は計画変更時に添付。

また、既に活動を実施している活動組織が、認定された事業計画の内容を変更する場合は、以下を参考に手続きを行って下さい。



認定された事業計画の変更手続きについて

認定された事業計画や活動計画等に変更が生じた場合は、以下の①又は②の手続きが必要となります。

①認定された事業計画の変更の申請

- 保全管理する対象農用地面積の変更
- 保全管理する対象施設の変更
- 対象組織の変更※
- 活動の追加、中止又は廃止
- 活動期間の延長

※組織をNPO法人化した場合も該当します

【申請時期】
上記のいずれかの変更が生じたとき
【申請書に添付する書類】
変更があった事業計画書、活動計画書等

②認定された事業計画の変更の届出

- 左記以外の変更

（例）
- 役員の交代、構成員の変更が生じた場合
- 遊休農地を一部解消した場合
- 保全管理する対象施設の延長又は路線の増減　等

【届出時期】
変更があった年度の実施状況の報告時又は翌年度の交付申請時のいずれか早い期日
【提出書類】
変更があった事業計画書、活動計画書等

長寿命化整備計画書（25ページ）の認定、変更手続きについて

①長寿命化整備計画書の認定

資源向上支払交付金（長寿命化）で工事１件当たり200万円以上の工事となることが明らかな場合は、「長寿命化整備計画書」を作成し、事業計画書に添付して市町村長に提出します。
長寿命化整備計画は、都道府県が定める要綱基本方針に基づき市町村で審査が行われ、必要に応じ都道府県との協議を経た上で、その内容が適当と認められる場合に認定されます。

なお審査の結果、整備内容等の見直しを市町村から指示されることもあり得ますので、その場合は市町村の指示に従い、必要な長寿命化整備計画や活動計画の見直しを行ってください。

②長寿命化整備計画書の変更

認定された長寿命化整備計画書の記載事項に以下の変更が生じた場合は、25ページの計画変更の有無にかかわらず、変更内容を記載した長寿命化整備計画書を市町村長に提出し、その審査・認定を受けます。
また以下に該当しない変更の場合は、市町村長への届け出を行います。

○工事１件当たり200万円以上の工事の追加
○工事１件当たり概算事業費の３割以上の増加

③その他留意点

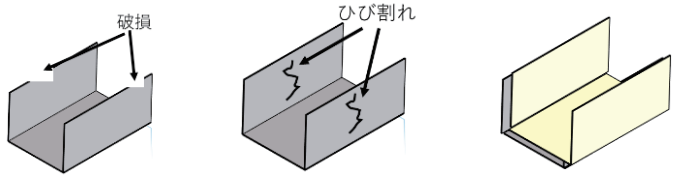
平成30年度までに交付され積み立てた交付金を使い、工事１件当たり200万円以上の工事を行おうとする場合も、例外なく長寿命化整備計画書の作成が必要となります。
（根拠：令和元年度改正の実施要領附則2）

長寿命化にかかる工事１件の考え方と長寿命化整備計画書作成の必要性

・栃木県の基本方針において、原則として**工事1件当たり200万円未満**とします。
・対象施設等の緊急度を踏まえ、適用可能な事業がない、または県予算及び市町村予算の状況、事業執行体制から事業化が困難な場合に限り、200万円以上の工事も認められる場合があります。

長寿命化整備計画書の作成が不要な場合

パターン①　異なる路線別に補修工事を一括で発注（450万円）

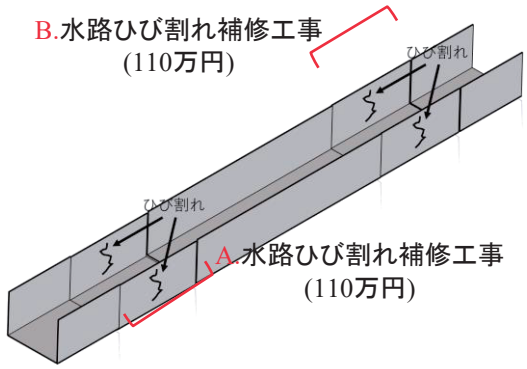


A.水路破損部補修工事（150万円）
B.水路ひび割れ補修工事（110万円）
C.フリューム交換（190万円）

【工事1件の考え方】
A,B,Cそれぞれ工事1件としてカウントする。

【長寿命化整備計画書の作成】
A,B,Cとも作成不要。

パターン②　同一路線で連続していない箇所の補修工事を一括で発注（220万円）



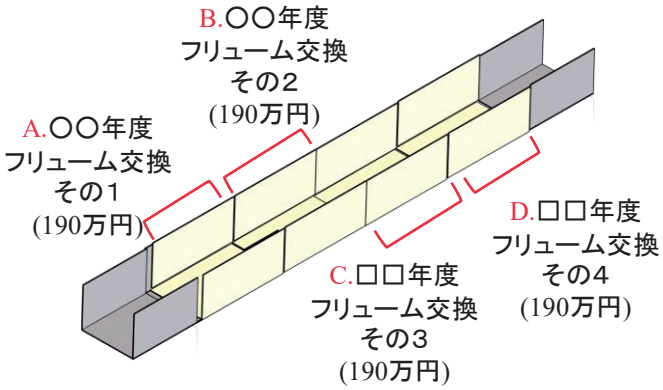
【工事1件の考え方】
工事箇所の間隔が離れていれば、別工事とする。よってA,Bそれぞれ工事1件としてカウントする。

【長寿命化整備計画書の作成】
A,Bとも作成不要。

長寿命化整備計画書の作成が必要な場合

※　原則200万円以上の工事は、他事業で実施すること

パターン③　同一路線で水路の補修工事を年度ごとに分割して発注（760万円）



【工事1件の考え方】
連続しているA,B,C,Dは、4つまとめて工事1件（A+B+C+D）としてカウントする。

【長寿命化整備計画書の作成】
上記の考え方から作成が必要。
ただし、1件当たり2百万円以上の工事を実施したい場合は、まずは他事業による実施を検討すること。

・イメージ図は、水路の補修工事の場合。あくまでイメージであり、必ずこれによるものではありません。

工事に関する確認書

土地改良区等（市町村を除く）が所有又は管理する施設を対象とした活動を行う活動組織にあっては、当該所有者又は管理者と交わした「工事に関する確認書」を事業計画書と併せて市町村長に提出します。

（様式第１－５号）

【活動組織から市町村に提出するもの】　　農林水産省様式

工事に関する確認書

多面的機能支払交付金実施要綱（平成26年４月１日付け25農振第2254号農林水産事務次官依命通知）別紙２の第５の５の（１）のエに基づき、○○活動組織（以下「活動組織」という。）と○○土地改良区（以下「土地改良区」という。）は、○○に存する水路、農道等の地域資源の質的向上を図る共同活動並びに施設の長寿命化のための活動が円滑に実施できるよう、下記のとおり工事に関して確認する。

記

（活動の対象となる施設及び内容）

第１条　活動組織が行う多面的機能支払交付金に係る活動の対象となる施設及び活動期間は、別添「多面的機能支払交付金に係る活動計画書」のⅠに定めるとおりとする。

２　活動組織が資源向上支払交付金により行う活動は動計画書」のⅡに定めるとおりとする。

土地改良区等との協議内容に応じて、不要な記述は削除して下さい。

（工事の施行に関する条件）

第２条　活動組織は、工事の施行に当たって、常に災害等の防止に努めるものとし、当該工事が原因で、第三者に損害を与え、若しくは与えるおそれのあるときは、活動組織の負担において必要な措置を講ずるものとする。

２　土地改良区が管理する施設に関し、活動組織が実施する工事によって生じた工作物等は、土地改良区に無償で譲渡するものとする。その際には、あらかじめ土地改良区と協議し、工作物等の譲渡に必要となる工作物等の所在、構造、規模、数量等が明示された図面等の書類の作成、譲渡の時期及びその他必要となる手続について、土地改良区の指示を受けるものとする。

３　活動組織は、土地改良区が管理する施設に関し、工事に当たって詳細な工事内容について土地改良区に提出し、工事内容に変更が生じた場合には、あらかじめ、土地改良区に協議し、その指示を受けるとともに、工事が完了したときは、土地改良区にその旨を報告し、土地改良区は書類確認を行うとともに、必要に応じて現地確認を行うものとする。

（その他）

第３条　この確認書に定めのない事項、又は疑義が生じた場合には、土地改良区と活動組織が協議をして定めるものとする。

上記確認書の締結を証するため、土地改良区と活動組織は、本書２通を作成し記名の上、それぞれ１通を保有するものとする。

○○年○○月○○日

○○地域資源保全会
○○県△△市○町○-○-○
代　表　　○○○○

○○土地改良区
住　所
理事長　　○○○○

農道の工事について

長寿命化の取組は、原則として道路法上の道路は対象外としています（道路法第24条に基づき道路に関する工事の設計及び実施計画について道路管理者の承認を受ける必要があるため）。
ただし、市町村道に認定された農道であっても、地域の慣行として組織が農用地や農業用施設と一体的に管理している場合、道路法施行令第３条に基づく軽易な維持活動は可能な場合がありますので、市町村と協議の上、調整を了したものについて、活動の対象とします。

III 交付金及び概算払の申請

事業計画が認定された後、多面的機能支払交付金の交付を受けようとするときは、毎年度、市町村長へ申請を行います。

申請に係る手続きについては、以下のとおりです。

(1)交付金の交付申請

①交付申請書の提出
活動組織は、毎年度市町村が定める日までに、当該年度の活動に必要な交付金の交付申請書を市町村長に提出します。

②交付決定の通知
市町村が、交付申請書の内容について必要な審査を行った後に、市町村長から交付金の交付決定通知が活動組織に送付されます。

交付申請時の注意点

1. 交付金の振込口座の通帳の写し（口座番号、口座名義が分かる箇所）を添付して下さい。
2. 振込先が複数ある場合は、振込口座・口座名義様式をコピーして記載し、提出して下さい。

交付金の交付ルート

(2)概算払の請求

交付決定の通知がなされた後、多面的機能支払交付金の概算払（前払い）を受けようとするときは、市町村長に概算払を請求します。

①概算払申請書の提出
交付決定の後、概算払請求書を市町村長に提出します。

②概算払決定の通知
市町村は、概算払請求書の内容について必要な審査を行った後に、概算払額を決定し、概算払決定通知書等により活動組織に通知するとともに、交付金を支払います。

IV 活動の実施・記録

日々の作業の内容や金銭の収支等について記録します。

1. 活動記録

(1)活動記録について

- 日々の作業を記録しその内容を点検することにより、作業上の課題を抽出し、その改善を図るなど、効率的な活動に資することができます。
- また、活動記録は、実施状況報告書の根拠資料となるものであり、市町村による活動要件の確認、活動の評価及び指導等を行う上で不可欠な資料です。
- これらのことから、日当等金銭の支出の有無を問わず、活動計画に位置付けられた活動（活動の準備等を含む）を実施した場合は、その内容を記録することが重要です。

(2)活動記録の作成に当たって(様式第1－6号の記載方法)

○ 「活動項目番号」「活動内容」欄の記載方法

69～72ページの活動項目番号表から、その活動に該当する活動項目番号を選んで記入します。これにより、エクセル形式の活動記録では、活動項目番号を入れると自動的に「活動内容」の各項目が作成されます。

手書きの場合は、上記の活動項目番号表から、その活動にあてはまる「活動項目番号」を選んで記入するとともに、その番号に該当する「支払区分」「活動区分」「活動項目」の内容を、活動項目番号表の記述をもとに記入します。（記述は簡単にしてもOK。）

なお、活動項目番号から活動内容がわかるため、手書きの場合「活動内容」欄の各項目の記入を省略することも可能です。

○ 「備考」欄の記載方法

備考欄には、地域での活動内容を「何を、どのようにして、どれだけ行ったか」具体的に記入します。（年度末の実施状況報告書の作成にも必要不可欠な情報です。）

○ 「活動に参加した最大人数」欄の記載方法

手書きの場合、「活動参加人数」欄の「農業者」「農業者以外」の項目について、活動記録に記された人数のうち年間最大となっている人数を選び、最下段の「活動に参加した最大人数」欄の同じ項目欄にそれぞれ記入し、その合計人数を「合計」欄に記入します。

エクセル形式の活動記録では、この欄は自動的に集計記入されます。

様式の経過措置等について（令和元年度改正の実施要領附則３及び４）

- 平成30年度までに事業計画の認定を受けた対象組織は、従来の活動記録の様式を使用することもできますが、新様式に移行されることをお勧めします。
- その他、市町村長及び都道府県知事が地方農政局長等と協議し同意が得られた活動記録の独自様式についても使用可能です。

（様式第１－６号）　　農林水産省様式

【活動組織から市町村に提出するもの】　　組織名：

令和　○○　年度　多面的機能支払交付金　活動記録　　○○地域資源保全会

金銭の支出の有無にかかわらず、活動計画に位置づけた活動を行った場合には、それらの全てを活動記録に記載して下さい。

「活動項目番号」欄には、P.69～P.72の活動項目番号表から、該当する活動項目番号を選択し入力します。同一日に複数の活動を行った場合は、該当する全ての活動項目番号を左詰めで一行に記入します。番号欄が足りない場合は、複数行に分けて記入します。

同一日に複数の活動を行った場合は、該当する全ての活動項目番号を左詰めで一行に記入し

活動実施日時			活動参加人数			活動項目番号（左詰め）						活動内容			備考（具体的な活動内容を記入）
日付	実施時間		農業者	農業者以外	総参加人数							支払区分	活動区分	活動項目	
	開始時刻	実施時間													
4/1	9:00	3.5時間	10人	5人	15人	2	28					農地維持,共同	計画策定,計画策定	2 年度活動計画の策定,28 年度活動計画の策定	年度計画の策定
4/8	13:00	2.0時間	8人	2人	10人	11						農地維持	農道	11 農道側溝の泥上げ	○○の泥上げ
4/10	9:00	2.0時間	3人	2人	5人	1	17	24	25	26		農地維持,農地維持,共同,共同	点検,推進活動,機能診断,機能診断,機能診断	1 点検,17 農業者の検討会の開催,24 農用地の機能診断,25 水路の機能診断,26 農道の機能診断	施設の点検、機能診断、非農業者との連携強化のための検討会
4/20	10:00	2.0時間	1人	0人	1人	200							事務処理	200 事務処理	領収書の整理
5/11	9:00	3.0時間	10人	5人	15人	34	36					共同,共同	生態系保全,景観形成・生活環境保全	34 生物多様性保全計画の策定,36 景観形成計画、生活環境保全計画の策定	計画策定
6/2	13:00	2.0時間	5人	5人	10人	3						農地維持	研修	3 事務・組織運営等に関する研修、機械の安全使用に関する研修	活動事務研修
		0時間	30人	10人	40人	5	7	10	100	101	104	農地維持,農地維持,農地維持,農地維持,農地維持	農用地,水路,農道,農用地,水路,農道	5 畦畔・法面・防風林の草刈り,7 水路の草刈り,10 農道の草刈り,100 機械除草部分の拡大（農用地）,101 機械除草部分の拡大（水路）,104 機械除草部分の拡大（農道）	法面、○○水路、農道の草刈り
		0時間	10人	10人	20人	4						農地維持	農用地	4 遊休農地発生防止のための保全管理	遊休農地の草刈り
6/22	13:00	1.0時間	4人	1人	5人	16							共通	16 異常気象時の対応	見回り
9/1	13:00	1.0時間	2人	1人	3人	60						共同	増進活動	60 広報活動・農的関係人口の拡大	ホームページの開設
9/2	9:00	3.0時間	20人	50人	70人	39						共同	生態系保全	39 生物の生息状況の把握（生態系保全）	生きもの調査
10/12	9:00	3.0時間	20人	30人	50人	45							景観形成・生活環境保全	45 植栽等の景観形成活動（景観形成・生活環境保全）	○○の植栽
この線より上に行を挿入してください。															

「実施時間」には休憩時間を含まない実働時間を、概ね0.5時間単位で記入します。

※エクセル様式では自動集計

	農業者	農業者以外	合計
活動に参加した最大人数	30人	50人	80人

左の合計人数を記入

「活動参加人数」欄の「農業者」「農業者以外」の項目で年間最大となっている参加人数を選んでここに記入します。
※エクセル様式では自動作成されます。

手書きの場合、左の「活動項目番号」にあてはまる「支払区分」「活動区分」「活動項目」の内容を、P.69～P.72の活動項目番号表の記述をもとに記入します。（記述は簡単にしてもOKで、省略することも可。）
※エクセル様式では活動項目番号から自動作成されます（本例はその場合を表示）。

地域での活動内容をできるだけ具体的に記入します。

本活動記録には、活動の取りまとめ等の事務処理や打ち合わせについても記入して下さい。

2. 金銭出納簿

(1)金銭出納簿について

- 交付金を有効に活用し、計画的に活動するためには、日々の収入、支出等を記録し、交付金を適切に管理する必要があります。
- 共同活動を行うに当たって、金銭出納簿を用いた透明性の高い会計を行うことは非常に重要です。
- 金銭出納簿は、実施状況報告書の根拠資料となるものであり、市町村が交付金の使途の確認や指導等を行う上で不可欠な資料です。

(2)金銭出納簿の作成に当たって(様式第1－7号の記載方法)

- 金銭出納簿は、毎年度新しいものを用意し、農地維持支払交付金及び資源向上支払交付金に係る全ての出納について記載します。
- 整理する順番は、活動日ではなく実際に収入や支出のあった日付順として下さい。収入や支出日とは別に、活動の実施日についても所定の欄に記載して下さい。
- 年度末には、金銭出納簿について内部監査を実施する必要があります。
- 金銭出納簿や領収書等支払を証明する書類は、交付が完了した日の属する年度の翌年度から起算して５年間保管する必要があります。
- 保管すべき書類のうち、電磁的記録により保管可能なものは、電磁的記録によることができます。その際、不鮮明なデータとならず、バックアップを作成し、データの改ざん防止措置を行うことを推奨します。

経理区分の整理、長寿命化への活用について

- 様式の「区分」欄に「１」のみを入れる金銭出納簿と「２」のみを入れる金銭出納簿の２つに分けて管理することも可能です。
- 農地維持・資源向上（共同）の交付金を長寿命化に活用する場合は、「長寿命化への活用」欄に○を記入することで整理することとしました。
- なお、経理区分を一本化する場合においても、資源向上支払交付金（長寿命化）を農地維持活動や資源向上活動（共同）に充当することはできません。

※　平成29年度からの経理区分を一本化する様式を使用している組織については、令和元年度からの実施状況報告書において長寿命化とそれ以外の支払いの収支に分けた集計を容易にするため、新様式の金銭出納簿の使用をお勧めします。

様式の経過措置等について（令和元年度改正の実施要領附則３及び４）

- 平成30年度までに事業計画の認定を受けた対象組織は、従来の金銭出納簿の様式を使用することもできますが、新様式に移行されることをお勧めします。
- その他、市町村長及び都道府県知事が地方農政局長等と協議し同意が得られた金銭出納簿の独自様式についても使用可能です。

支出費目

「分類」欄には、以下の区分から該当する費目を選択し記載して下さい。

番号	支出費目	内容
1	前年度持越	前年度からの持越金
2	交付金	農地維持支払交付金、資源向上支払交付金（共同）、資源向上支払交付金（長寿命化）、他の活動組織からの融通額・返還額
3	利子等	利子等、構成員による活動資金の立替金
4	日当	活動参加者に対して支払った日当
5	購入・リース費	資材（砕石、砂利、セメントなど）の購入費、活動に必要な機械（草刈り機など）の購入費、パソコンなどのリース費、車両、機械等の借り上げ費、花の種、苗代など
6	外注費	補修・更新等の工事等（調査、設計、測量、試験等を含む）に係る建設業者等への外注費、事務の外注費など
7	その他支出	技術指導等のために外部から招く専門家等への謝金、活動に係る旅費、保険料、草刈り機の替刃、役員報酬、お茶代など
8	返還	返還金、他の活動組織への融通額・返還額

支出に当たっての留意点

○　日当

- 日当の単価は、地域で一般的に総会で適用されている類似作業の労務単価等を参考にするなど、地域の実情を踏まえて決定し、毎年構成員全員に周知して下さい。

○　購入・リース費

- 機械や事務機器の購入に当たっては、財産管理や目的外使用防止の徹底が必要であり、利用回数や期間、価格を踏まえ、リースやレンタルする場合の条件と比較して判断する必要があります。
- 購入・リースした機械等を本交付金の目的以外の用途に使用した場合、購入・リースに要した経費を全額返還する必要があることから、適切な管理が求められます。

○　外注費

- 本交付金は、地域が共同で行う地域資源の保全管理活動等を支援するものですが、活動の規模や技術面から見て活動組織で実施可能な範囲を超えていると判断される場合に限り、作業委託等の外注により実施することが可能です。
- 外注を行う場合には、３者以上から見積もりを徴収するなど効率的かつ透明性の高い予算執行に努めて下さい。

○　その他

- 共同活動には草刈や泥上げといった危険を伴う作業が多いことから、保険への加入を推奨します。

支出費目

1） 交付金の支出対象とならない経費

番号	項　　目	具　体　例
1	農業者の営農活動にかかる経費	・営農活動に必要なポンプの電気代など農業水利施設の運転経費 ・営農のための人件費、機械経費、資材等の購入費
2	多面的機能の発揮と関連しない経費	・活動組織の活動と関連しない行事や農業と関連しない祭りに関する費用 ・接待費、慶弔費、酒類・つまみの購入費、慰労を目的とした旅費、自治会等の集会所の備品の購入費、神社への玉串料や奉納品代等
3	他団体への寄付	・他団体への寄付・助成 ・他団体の経常的運営に必要な経費
4	他事業の地元負担への充当	・他事業による施設整備・補修等の地元負担
5	管理者が決まっている施設の維持管理に要する経費	・国、都道府県又は市町村が管理者となっている道路や河川の維持管理の経費 ※ただし、地域の慣行として施設管理者の了解のもと、農地や水路等の施設などの地域資源の保全管理と一体的に維持管理している施設については対象にすることができる場合があるので、市町村に相談のこと。
6	自ら実施する必要があるものに要する経費	・活動組織の設立前に必要な事業計画の策定に係る費用

※ 活動計画に位置づけ、事業計画の認定を受けた活動に係る経費については交付の対象です。

2） その他留意事項

①毎年の持越し金額が多い場合は、事業計画期間を待たずに返還するようにします。

②交付金により取得した物品は多面的支払交付金活動以外には原則使用できません。

③机やテント等の汎用性が高く、多面的の活動以外でも使用の可能性がある物品を購入する場合は、市町担当者に相談しましょう。

④数量の多い消耗品や子ども達への参加賞等を配布する際は配布リストを作成します。

⑤お弁当や食材などの支出は控えること。（飲み物については熱中症対策として交付金からの支出が認められます。）

⑥事務委託について、委託費の積算根拠、作業に見合う単価設定、諸経費率、委託契約書類、作業日数等の実績等を整理します。

⑦研修会を計画する場合は市町担当者と相談し、研修の目的、研修した効果、その結果等について整理します。（先進地視察研修が、活動目的と合致しない観光的な視察となっていないか。）

⑧研修先の活動組織への手土産や謝礼を交付金から支出することはできません。（交付金の流用となるため）

⑨施設の補修・更新を行う場合は、点検・機能診断を行いその結果を点検記録管理表等でまとめてから実施しましょう。

※「区分」欄に「1」のみを入れる金銭出納簿と、「2」のみを入れる金銭出納簿の2つを作れば、長寿命化とそれ以外を区分した経理を行っている場合に対応できます。

（様式第１－７号）
【活動組織から市町村に提出するもの】

農林水産省様式

令和○○年度　多面的機能支払交付金 金銭出納簿

組織名：○○地域資源保全会

「分類」欄は、次ページに示す分類の「番号」を記入します。※エクセル様式では番号をプルダウンで選ぶと費目も一緒に記入されます（本例はその場合を表示）。

化）に係る収支は「２」を必ず入力してくださ

★農地維持・資源向上（共同）の交付金を活用して資源向上（長寿命化）の活動を行った際の費用は、区分を「１」にし　「長寿命化への
ください。

「区分」欄には、農地維持・資源向上（共同）の収支は「1」を、資源向上（長寿命化）の収支は「2」を記入します。区別ができない支出は「1」を記入してください。

領収書に記載した整理番号を記入します。

★交付金交付　ください。
また、返済の際は返済額をマイナスの収入として収入欄に記入し、一時的な立替額が収入/支出の日付に計上されないようにしてください。

領収書と同じ日付（実際に支払を行った日付）を記入します。

農地維持・資源向上（共同）から資源向上（長寿命化）に交付金を活用して行った活動の費用は、「区分」欄を「1」とし、「長寿命化への活用」欄に○を記入します。

日付	分類	内　容	区分	収入（円）	支出（円）	残高（円）	領収書番号	活動実施日	備考	長寿命化への活用
4/1	1.前年度持越	前年度持越（農地維持・資源向上（共同））	1			30,000				
4/1	1.前年度持越	前年度持越（資源向上（長寿命化））	2			33,300				
4/20	7.その他支出	傷害保険加入	1			22,500	1	4/15		
5/15	7.その他支出	泥上げ飲み物（@100×30本）	1		3,000	19,500	2	4/15		
5/20	7.その他支出	草刈り飲み物（@100×50本）	1		5,000	14,500	3	5/30		
6/20	7.その他支出	チップソー（@2000×50枚）	1		10,000	4,500	4	6/20		
6/20	5.購入・リース費	花苗（@300×100株）	1	30,000	30,000	4,500	5	6/20		
6/25	2.交付金	農地維持・資源向上（共同）交付金	1	2,000,000		2,004,500				
7/1	2.交付金	資源向上（長寿命化）交付金	2	1,000,000		3,004,500				
7/10	5.購入・リース費	花苗　立て替え返金	1	▲ 30,000		2,974,500				
		利息	1	10		2,974,510				
		利息	2	10		2,974,520				
		草刈り日当（@1,000×2h×20人）	1		40,000	2,934,520	6	4/1		
						⋮				
1/25	6.外注費	水路更新	2		988,000	546,520	21	12/3	○△用水路	
2/2	5.購入・リース費	水路補修資材購入	1		73,000	473,520	22	2/6	○×用水路	○
2/6	4.日当	水路補修日当（@1,000×3h×5人）	1		15,000	458,520	23	2/6	○×用水路	○
3/10	7.その他支出	保険戻入金	1		▲ 2,000	460,520	24			
3/20	7.その他支出	役員報酬	1		15,000	445,520	25			
3/31	8.返還									
合　計					800					

※領収書は必ず保管して下さい。
※領収書はレシートでも構いません。
（日付、店名が記入されていない場合は記入して下さい。また、感熱紙のレシートは、経年により文字が消えてしまうので、コピーも保管して下さい。）
※領収書は品名、規格、購入数量等も記入してもらうようにして下さい。

保険料や過払い戻入処理
・前年度支出の場合は収入で処理。
・当該年度に支出の場合は支出のマイナスで処理。

購入した資材や日当等の内訳を具体的に記入します。

残高が無い又は少ない場合は、残高が真稲津とならないよう収入・支出に同額を記載し、交付金が入金されたら収入のマイナスで返金します。※残高に余裕がある場合は、立替払いを行っていても支出のみに金額を記載すること。

実際の活動実施日を記入します。（活動記録の「日付」と一致します。）

※領収書は、通し番号を記入した上で、必ず保管しておいてください。（領収書の保管の方法は表等による保管でも構

金銭出納簿の「区分」が「1」の収入／支出をここに集計します。
※エクセル様式では前ページの表から自動集計されます。

【集計】 **1 農地維持・資源向上（共同）** （円）

項目	金額	
	収入	支出
1.前年度持越	30,000	
2.交付金	2,000,000	
3.利子等	10	
4.日当		555,000
5.購入・リース費		903,000
6.外注費		
7.その他支出		141,800
8.返還		100,000
次年度への持越（残高）		330,210
合　　計	2,030,010	2,030,010

金銭出納簿の「区分」が「2」の収入／支出をここに集計します。
※エクセル様式では前ページの表から自動集計されます。

【集計】 **2 資源向上（長寿命化）** （円）

項目	金額	
	収入	支出
1.前年度持越	3,300	
2.交付金	1,000,000	
3.利子等	10	
4.日当		
5.購入・リース費		
6.外注費		988,000
7.その他支出		
8.返還		
次年度への持越（残高）		15,310
合　　計	1,003,310	1,003,310

※「分類」には、下表を参考に該当する費目の番号を記入します。（他組織との交付金のやりとりがある場合は、その旨を備考欄に記載）

前ページの「分類」欄へこの番号を選んで記入します。

番号	費目	内　　容　　（例）
1	前年度持越	前年度からの持越金
2	交付金	農地維持支払交付金、資源向上支払交付金（共同）、資源向上支払交付金（長寿命化）、他の活動組織からの融通額・返還額
3	利子等	利子等、構成員による活動資金の立替金
4	日当	活動参加者に対して支払った日当
5	購入・リース費	資材（砕石、砂利、ｾﾒﾝﾄなど）の購入費、活動に必要な機械（草刈り機など）の購入費、パソコンなどのリース費、車両、機械等の借り上げ費、花の種、苗代など
6	外注費	補修・更新等の工事等（調査、設計、測量、試験等を含む）に係る建設業者等への外注費、事務の外注費など
7	その他支出	技術指導等のために外部から招く専門家等への謝金、活動に係る旅費、保険料、文具代及び光熱費の費用、アルバイト等への賃金、草刈り機や車の燃料代、役員報酬、お茶代など
8	返還	返還金、他の活動組織への融通額・返還額

残額は、次年度以降の活動に必要とされるものに限り、持越すことができます。（次年度への持越金が当該年度交付金の3割を超え、かつ、100万円以上である場合は使用計画書（様式はP.52～P.53 ）を作成してください。）
持越額を次年度に活用する際には、前年度の実施状況報告書で定めた用途に従ってください。
次年度以降使用する見込みのないものは、市町村に返還してください。

3. 財産管理台帳

(1)財産の取扱いについて

- 多面的機能支払交付金により更新等を行った施設（財産）及び、機械や器具等の物品については、活動期間終了後においても、事業計画認定時の条件や工事に関する確認書や農林畜水産業関係補助金等交付規則別表（第5条関係）の耐用年数に基づき、定められた管理者が適切に管理することになります。
- また、土地改良区等（市町村を除く）の施設において更新等を行い、活動組織が財産を取得した場合、速やかにその財産を土地改良区等に譲渡する必要があります。（必要となる資料や具体的な手続きは、あらかじめ土地改良区等と協議し、指示を受けて下さい。）
- これらを確実かつ円滑に行うため、活動組織において財産管理台帳を作成することは非常に重要です。

(2)財産管理台帳の整備

- 更新等を行った施設については、活用した交付金の種類を問わず、その都度、財産管理台帳に整理し保管する必要があります。
- また、１件当たりの取得価格が50万円以上の機械及び器具と農林畜水産業関係補助金等交付規則別表（第５条関係）に掲げるものについても、同様に財産管理台帳に整理が必要です。
- 財産管理台帳には、施設の構造・規格、施工箇所、処分制限期間等を記載します。

※　財産管理台帳（様式第１－10号）の様式については、処分制限期間欄及び処分の状況を含む独自様式で管理することもできます。

※　軽微な事務用品や物品、燃料等の消耗品、施設の補修工事等に使われる材料などについては台帳で整理する必要はありません。

財産の処分制限期間について

活動組織が更新等を行った施設については、処分制限期間内は、交付金の目的に反した譲渡、使用等が制限されます。※

この処分制限期間は、耐用年数を勘案して施設毎に定められるものです。詳しい内容については、44、45ページの財産の耐用年数の例を参考にして下さい。

※　処分制限期間内に、交付金の目的以外の譲渡、使用等を行う場合は、地方農政局長等の承認が必要となります。
（施設の従前の所有者である土地改良区等への譲渡については、交付金の目的に反して行われるものではないため、地方農政局長等への承認申請不要です。）

（様式第１－10号）
【活動組織が作成・管理するもの】

農林水産省様式

財 産 管 理 台 帳

工事費を記入して下さい。
（調査費や事務費を除く。）

市町村名	○○市	対象組織名	○○地域資源保全会	活動期間	令和4　年度　～　令和8　年度

事業の内容				工期		経費の区分				処分制限期間		処分の状況		備考
名称	工種構造・規格	施工箇所又は設置場所	事業量	着工年月日	竣工年月日	総事業費（単位:円）	経費内訳（単位:円） 国費分	地方費分	その他	耐用年数	処分制限年月日	承認年月日	処分の内容	
水路	○○用水路　BF-400	○○県○○市○○番	200m	R4.9.12	R4.12.12	630,000	315,000	315,000	0	40	R44.12.12		無償譲渡	着工:○○地域資源保全会 R4.3.20に○○土地改良区へ譲渡済み
						630,000	315,000	315,000						

更新等を行った施設並びに取得価格が50万円以上の機械及び器具がある場合、また農林畜水産業関係補助金等交付規則別表（第5条関係）に掲げるものについて、作成します。

注１
注２：処分の内容欄には、譲渡、交換、貸付け、担保提供等別に記入すること。
注３：備考欄には、譲渡先、交換先、貸付け先、抵当権等の設定権者の名称又は交付金返還額を記入すること。
　　また、外注工事の場合には施工業者名等を記入するなど、今後の財産管理において必要となる事項について適宜記入すること。
注４：この書式により難い場合には、処分制限期間欄及び処分の状況欄を含む他の書式をもって財産管理台帳に代えることができる。
注５：複数年にわたって施工する施設については、完成した年度で記載するものとする。
注６：「名称」は「水路」や「農道」等、対象施設の名称を記入すること。

※農業用施設等の構築物以外の物品等については、下表のような独自様式の台帳を作成し、管理することも可能です。

処分制限期間と処分状況の欄が必要です。

財 産（物 品）管 理 台 帳（例）

○○地域資源保全会

番号	品目名	数量	購入金額	取得年月日	処分制限期間 耐用年数	処分制限期間 処分制限年月日	処分の状況 承認年月日	処分の状況 処分の内容	摘要
1	草刈り機（○○-○）	10台	212,000円 （@21,200×10）	R4.4.21	7	R11.4.21			
2	パソコン（□□-□）	1台	54,000円	R4.6.25	4	R8.6.25			
計			266,000円						

（注）１．交付金で購入した備品については、農林畜水産業関係補助金交付規則別表に参照し本表で整理する。
　　２．処分制限年月日欄には、処分制限の終期を記入すること。

財産の耐用年数について

○多面的機能支払交付金における財産の耐用年数の例
（農林畜水産業関係補助金等交付金規則別表（第５条関係）を参照）

財産の名称、構造等	具体例	耐用年数（年）
構築物		
農林業用のもの		
主としてコンクリート造、れんが造、石造又は物品ブロック造のもの		
その他のもの	コンクリート製水路、現場打ち水路、農道側溝の蓋（コンクリート二次製品）	17
主として金属造のもの	ゲート、バルブ、金網フェンス、鳥獣害防護柵（電気柵）	14
主として木造のもの	水田魚道、柵	5
その他のもの	遮水シート（ため池堤体）	8
緑化施設及び庭園		
その他の緑化施設及び庭園（工事緑化施設に含まれるものを除く。）	防風林	20
舗装道路及び舗装路面		
コンクリート敷、ブロック敷、れんが敷又は石敷のもの	コンクリート舗装、砂利舗装	15
アスファルト敷又は木れんが敷のもの	アスファルト舗装	10
前掲のもの以外のもの		
金属造のもの		
送配管		
鋳鉄製のもの	鋳鉄管（水路）	30
鋼鉄製のもの	鋼管（水路）	15
合成樹脂のもの	塩ビ管、合成樹脂管（水路）	10
車両及び運搬具		
前掲のもの以外のもの		
その他のもの		
その他のもの	一輪車	4
工具		
治具及び取付工具	レンチ	3
切削工具	ディスクグラインダー、のこぎり	2
前掲のもの以外のもの		
主として金属製のもの	タガネ、ハンマー	8
その他のもの	スコップ（柄が木製）	4

具体例として記載がない施設や物品等については、
市町村の担当窓口へお問合せください。

財産の名称、構造等	具体例	耐用年数（年）
器具及び備品		
家具、電気機器、ガス機器及び家庭用品（他の項に揚げるものを除く。）		
事務机、事務いす及びキャビネット		
主として金属製のもの	机、椅子	15
その他のもの	机、椅子	8
その他の家具		
ラジオ、テレビジョン、テープレコーダーその他の音響機器	プロジェクター、スクリーン、マイク（ハンドマイクを含む）、アンプ、スピーカー	5
事務機器及び通信機器		
電子計算機		
パーソナルコンピューター（サーバー用のものを除く。）	パソコン	4
複写機、計算機（電子計算機を除く。）金銭登録機、タイムレコーダーその他これらに類するもの	プリンター	5
時計、試験機器及び測定器		
度量衡器	はかり	5
光学機器及び写真制作機器		
カメラ、映画投影機、映写機及び望遠鏡	カメラ、ドローン	5
看板及び広告機器		
看板	啓発用看板	3
その他のもの		
その他のもの	のぼり	5
容器及び金庫		
ドラムかん、コンテナーその他の容器		
その他のもの	プラスチックコンテナー、プランター	2
金庫	金庫	20
前掲のもの以外のもの		
その他のもの		
その他のもの	防草シート、防風ネット	5
機械及び装置		
農業用設備	草刈機、モア（草刈りアタッチメント）、トラクター用除雪機（アタッチメント）、チェーンソー、ポンプ	7
ソフトウエア		
その他のもの	事務支援ソフト、書籍	5

財産管理台帳で整理する必要がないものの例

○耐用年数1年未満の消耗品類
- コピー用紙、ボールペン、のり、テープ、ＣＤ－Ｒ、メモリー、事務用はさみ、ホッチキス、はんこ等の軽微な事務用品
- 軍手、タオル、ブラシ、ほうき、移植ごて、コーキングガン、ビニール傘、タッパ、種子、花苗等の軽微な物品

（使い捨て又は長持ちしないもので安価なもの）

○機械の燃料、潤滑油、乾電池、草刈り機替刃等の消耗品

○セメント、アスファルト、砕石、コーキング材、塗料、薬剤等、補修工事等に使われる材料

V 活動の報告

活動組織は、毎年度、活動計画に定められている事項の実施状況を取りまとめ、市町村長に報告します。

活動組織

(1)実施状況の取りまとめ

毎年度の活動終了後に、活動の実績を実施状況報告書に取りまとめます。
→48ページを参照(様式第1－8号)

実施状況報告書は、日々記録した活動記録及び金銭出納簿に基づき作成します。

複数集落から構成される活動組織については、必要に応じて「多面的機能支払交付金に係る実施計画、活動報告及び活動組織による活動報告確認票」を集落毎に取りまとめて下さい。
→54ページを参照(別記1－5様式第1号)

(2)実施状況報告書の提出

実施状況報告書は、次の書類を添付し市町村長に提出します。

- 活動記録　→36ページを参照(様式第1－6号)
- 金銭出納簿　→40、41ページを参照(様式第1－7号)
- その他必要な書類（総会議事録、点検記録簿、研修資料等）
  →提出資料は、市町村にお問い合わせ下さい。

市町村

(3)実施状況のとりまとめ確認

市町村は、活動計画書に定められた事項の実施状況について、書類確認及び現地確認により行います。

確認に当たっては、実施状況確認チェックシートを活用します。

活動組織

(4)次年度の年度活動計画の策定

市町村が実施状況の確認に用いたチェックシートは、活動組織に送付されます。

チェックシートには、市町村が確認を実施した際の所見が記載されているので、次年度の年度活動計画策定時の参考として下さい。

新たに遊休農地の発生が判明した場合は、その農用地を解消すべき遊休農地として位置付けるなど、活動計画（全体版）の変更を行う必要があります。

※　毎年度の活動報告とは別に、地域資源の適切な保全管理のための推進活動及び多面的機能の増進を図る活動に取り組む活動組織は、活動開始から２年目及び４年目に、これらの活動の実施状況や効果の発現状況等について自己評価を行い、市町村に報告する必要があります。（自己評価の詳細については市町村にお問合せ下さい。）
　なお、自己評価・市町村評価の４年目を実施した後、活動期間が終了した活動組織については、次期の活動期間における自己評価・市町村評価の実施は任意とし、報告は求めません。

実施状況報告書に添付し市町村に提出する資料と市町村が行う実施状況の確認の区分

○ 市町村へ提出する書類

書類名		作成	保管	提出
実施状況報告書	様式第1－8号	○	○	○
活動記録	様式第1－6号	○	○	○
金銭出納簿 ※2	様式第1－7号	○	○	○
財産管理台帳	様式第1－10号	○	○	※1
領収書	－	○	○	※1
総会資料	－	○	○	※1
総会議事録	－	○	○	※1
通帳	－	○	○	※1
活動写真	－	○	○	※1
作業日報	－	○	○	※1

○ 実施状況の確認内容

	実施状況の確認内容	
	書類確認	現地確認
農地維持支払交付金	○	○
資源向上支払交付金（共同）	○	必要に応じて実施
資源向上支払交付金（長寿命化）	○	活動期間中に1回以上実施

※ 左記書類以外には、点検記録簿や研修資料、外注に伴う見積書や契約書、日当を支払うための出勤簿（出面表）等について、作成・保管が必要です。

※ 写真整理帳の作成・提出は、事務の軽減等を図ることから必ずしも必要ではありませんが、自らの活動の変遷や地域外の人々にPR刷るための資料となりますので、年度ごと・活動ごとに写真を撮っていただき整理されることをお勧めします。

※1 市町村から提出を求められた場合は、提出が必要です。

※2 法人化した組織においては、金銭出納簿の市町村への提出は不要です。

持越金について

- 持越金については、次年度の当初期間に必要な額限りとし、使用時期、使用内容などを実施状況報告書の備考欄に記載します。使用予定が明確でないものについては返還が必要です。
- 長寿命化の取組として、持越金を積立てる場合は、長寿命化計画に位置付けた取組で次年度以降に必要な費用のみとします。
- 持越金については具体的な使用計画（取組内容ごとの使用時期と金額）などの資料を別途整理しておくことが必要です。
- 持越金が当該年度交付金の３割を超え、かつ、１００万円以上である場合は使用計画書を作成してください。

（様式第1－８号）
【活動組織から市町村に提出するもの】

農林水産省様式
○年○月○日

△△市 長　殿

実施状況報告書のかがみ文です。別添の報告書を添付して市町村へ提出してください。

○○地域資源保全会
多面　太郎

令和○年度　多面的機能支払交付金に係る実施状況報告書

多面的機能支払交付金実施要綱（平成26年４月１日付け25農振第2254号農林水産事務次官依命通知）別紙１の第５の７及び別紙２の第５の８に基づき、多面的機能支払交付金の実施状況について、別添のとおり報告します。

・「収支実績」については、エクセル様式では金銭出納簿の集計表をもとに自動作成されます。
・手書きの場合は、金銭出納簿の集計欄から当該年度の交付金の収入、支出実績を記入します。

多面的機能支払交付金に係る実施状況報告書

組織名称	○○地域資源保全会

＜○年度　収支実績　令和○年○月○日現在＞

	項　目	金額	
収入の部	1．前年度からの持越金（農地維持・資源向上（共同））	30,000円	
	2．前年度からの持越金（資源向上（長寿命化））	3,300円	
	3．農地維持・資源向上（共同）交付金	2,000,000円	
	4．資源向上（長寿命化）交付金	1,000,000円	
	5．利子等	20円	
	合　計	3,033,320円	

・金銭出納簿の「1.農地維持・資源向上（共同）」の集計欄の1と2から転記します。

・金銭出納簿の「2.資源向上（長寿命化）」の集計欄の1と2から転記します。

・金銭出納簿の「1.農地維持・資源向上（共同）」と「2.資源向上（長寿命化）」両方の「3.利子等」の金額を合計して記入します。

	項　目	金額	備　考
支出の部	1．支出総額（農地維持・資源向上（共同））	1,599,800円	
	日当	555,000円	
	購入・リース費	903,000円	
	外注費		
	その他	141,800円	
	2．支出総額（資源向上（長寿命化））	988,000円	
	日当		
	購入・リース費		
	外注費	988,000円	
	その他		
	3．返還	100,000円	
	4．次年度への持越金（農地維持・資源向上（共同））	330,210円	次年度の草刈り・泥上げ作業の経費として使用する
	5．次年度への持越金	15,310円	次年度の水路補修作業経費として使用する

・金銭出納簿の「1.農地維持・資源向上（共同）」の集計欄の4～7から転記します。

・金銭出納簿の「2.資源向上（長寿命化）」の集計欄の4～7から転記します。

持越金がある場合は、備考欄にその使用予定を具体的に記入してください。なお、持越金が当該年度交付金の3割を超え、かつ、100万円以上である場合は使用計画書を作成してください。

・金銭出納簿の「1.農地維持・資源向上（共同）」と「2.資源向上（長寿命化）両方の「8.返還」の金額を合計して記入します。
・「活動終了に伴う残金」や「不要な持越金」などを返還する場合は、備考欄に理由を記載します。
（「令和○年度活動終了に伴う精算額」や「不要な持越額の返還」などと記載。）

「開催日」欄
当該年度の活動や収支決算について総会や運営委員会に諮った日又は、開催予定日を記載してください。

1．総会又は運営委員会の実施時期

下記のとおり、総会又は運営委員会を開催し構成員の了解

開催日	令和○年○月○日

2．組織の広域化・体制強化の状況

下記にあてはまる場合は○を記入してください。

広域活動組織	特定非営利活動法人

「実施」欄
・実施した活動項目に「○」、実施できなかった項目は「×」を記入します。
※ エクセル様式では一部を除き、活動記録をもとに自動作成されます（対象外の項目は「－」を記入します。）

3．多面的機能支払交付金に係る事業の成果

「計画」欄
・活動計画に位置づけられた取組に「○」、それ以外は「－」を記入します。
※ エクセル様式では一部を除き、活動計画書をもとに自動作成されます。

の活動項目に「－」を記入する。
なかった場合や実施しなかった
－」を記入する。
内容や研修実施日等を
なかった理由や実施し

「備考」欄
・「実施」欄に「○」を記入した場合は、具体的な取組内容や研修実施日等を記入する。
・「実施」欄に「×」を記入した場合は、未実施となった理由を記入します。

（1）農地維持支払

農地維持支払交付金の交付を受けずに活動を実施した場合も記入してください。

活動区分			活動項目	計画	実施	備考
地域資源の基礎的な保全活動	点検・計画策定		1 点検	○	○	施設の点検
			2 年度活動計画の策定	○	○	4/1 年度活動計画の策定
	研修		3 事務・組織運営等に関する研修、機械の安全使用に関する研修	○	○	実施日 6/2 活動事務研修
	実践活動	農用	4 遊休農地発生防止のための保全管理	○	○	8/8 遊休農地の草刈り 遊休農地解消面積 5 a
		農用	5 畦畔・法面・防風林の草刈り	○	○	
			102 土水路の維持・管理	－	－	
			103 水路内の隠れ場確保	－	－	
		農道	10 農道の草刈り	○	○	6/10 ○△農道等
		農道	11 農道側溝の泥上げ	○	○	4/8 □□農道等
		農道	12 路面の維持	○	×	点検の結果、補修の必要がないため未実施
		農道	104 機械除草部分の拡大（農道）			
		ため池	13 ため池の草刈り			
		ため池	14 ため池の泥上げ	－	－	
		ため池	15 ため池附帯施設の保守管理	－	－	
		ため池	105 機械除草部分の拡大（ため池）	－	－	
		共通	16 異常気象時の対応	○	○	8/22 大雨後の見回り等

研修は、活動を開始後の早い段階で実施します。

保全管理区域内に既遊休農地がなく、かつ、点検の結果、遊休農地発生防止のための保全管理の活動を実施する必要がなかった場合は「実施」欄に「×」を記入し、備考欄に理由を記入します。※但し、活動計画書の遊休農地解消面積が0aの場合は、解消実施面積は__a（空欄）で整理します。

4 遊休農地発生防止のための保全管理	○	×	点検の結果遊休農地化のおそれのある農地が無かったため未実施 遊休農地解消面積 a

点検結果などに応じて実施する項目はエクセル様式を使う場合でも「計画」と「実施」の結果を手入力して下さい。

活動区分	活動項目	計画	実施	実施日	備考
地域資源の適切な保全管理のための推進活動	17　農業者の検討会の開催	○	○	4/10	非農業者との連携強化のための検討会
	18　農業者に対する意向調査、現地調査	－	－		
	19　不在村地主との連絡体制の整備等	－	－		
	20　集落外住民や地域住民との意見交換等	－	－		
	21　地域住民等に対する意向調査等	－	－		
	22　有識者等による研修会、検討会の開催	－	－		
	23　その他	－	－		

研修や地域資源の適切な保全管理のための推進活動等を行った場合、実施日と具体的な実施内容を記入します。

（２）資源向上支払（共同）

資源向上支払交付金（共同）の交付を受けずに活動を実施した場合も記入してください。

活動区分		活動項目	計画	実施	実施日	備考
施設の軽微な補修	機能診断・計画策定	24　農用地の機能診断	○	○	4/10	■■農地等
		25　水路の機能診断	○	○	4/10	○○水路等
		26　農道の機能診断	○	○	4/10	○○農道等
		27　ため池の機能診断	－	－		
		28　年度活動計画の策定	○	○	4/1	
	研修	29　機能診断・補修技術等に関する研修	○	×	実施日	令和○年度に受講予定
	実践活動	30　農用地の軽微な補修等	○	○	12/7	■■農地の除れき等
		31　水路の軽微な補修等	○	○	1/16	○○水路の目字詰め等
		32　農道の軽微な補修等	○	×		機能診断の結果、補修の必要が無かったため
		33　ため池の軽微な補修等	－	－		
農村環境保全活動	計画策定	34　生物多様性保全計画の策定	○	○		
		35　水質保全計画、農地保全計画の策定	－	－		
		36　景観形成計画、生活環境保全計画の策定	○	○	5/11	計画策定
		37　水田貯留機能増進計画、地下水かん養活動計画の策定	－	－		
		38　資源循環計画の策定	－	－		
	実践活動	39 生物の生息状況の把握（生態系保全）	○	○		
		45 植栽等の景観形成活動（景観形成・生活環境保全）	○	○	10/12	○○の植栽
		「活動計画書」と同じ行数になるよう、この線より上に行を挿入してください。				
	啓発・普及	51　啓発・普及活動	○	○	11/11	ポスターの作成

機能診断の結果などに応じて実施する項目はエクセル様式を使う場合でも「計画」と「実施」の結果を手入力してください。

「実施」欄に「×」を記入した場合は、未実施となった理由を記入します。

選択したテーマに基づき行う実践活動の活動項目については、P.71の活動項目番号表からあてはまる「活動項目番号」と「活動項目」を選び記入します。
※エクセル様式では活動計画書をもとに自動作成されます。

活動計画書で行を追加した場合は、同じ行数となるよう行を追加してください。

活動区分	活動項目	計画	実施	備考
多面的機能の増進を図る活動	52　遊休農地の有効活用	○	○	11/1　地域住民との▲▲の作付
	53　鳥獣被害防止対策及び環境改善活動の強化	－	－	
	54　地域住民による直営施工	－	－	
	55　防災・減災力の強化	－	－	
	56　農村環境保全活動の幅広い展開	○	○	11/6　福祉施設の利用者と植栽
	57　やすらぎ・福祉及び教育機能の活用	○	○	11/6　福祉施設の利用者と植栽
	58　農村文化の伝承を通じた農村コミュニ			
	59　都道府県、市町村が特に認める活動			
	60　広報活動・農的関係人口の拡大	○	○	9/1　ホームページの開設

活動項目番号52～59の増進活動の取組に関する広報活動の実施状況及び、農的関係人口の拡大に向けた広報活動の実施状況を記入してください。

構成員の総人数の8割以上が参加する「実践活動」P.64以下の活動項目番号表の活動項目で「実践活動」と位置づけられている取組を実施したことがわかるよう該当する活動の実施日と参加人数、内容を記入します。

※以下は加算措置に取り組む場合のみ記入してください

加算措置	計画	実施	実施日	
農村協働力の深化に向けた活動への支援	○	○	6/15	地域一斉草刈り活動に85名が参加

実践活動の参加者と構成員総人数がわかる資料（構成員一覧表など）を添付してください。

（３）資源向上支払（長寿命化）

当該年度に工事を行わず、調査や設計のみを行った場合は「○」を記入してください。

計画				実績			
施設区分	活動項目	内容	延べ数量（km,箇所）	完成数量（km,箇所）前年度まで	本年度	合計	調査・設計等のみ
水路	61　水路の補修	用水路の老朽化部分の目地補修を行う	0.10　km	0.00　km	0.05　km	0.05　km	
水路	62　水路の更新等	土水路からコンクリート水路への更新	1.20　km	0.00　km	0.00　km	0.00　km	○
水路	63　農道の補修	農道の路肩及び法面の補修	0.60　km				

「活動計画書」と同じ行数になるよう、この線より上

活動計画書に位置付けた数量のうち、本年度の完成数量を記入します（延長は小数点以下2位まで記入します）。

※延長の数量は小数点以下第２位まで記入してください。

・計画内容などは活動計画書から転記して下さい。
・エクセル様式では活動計画書をもとに自動作成されます。
・活動計画書で行を追加した場合は、同じ行数となるよう行を追加してください。

下記にあてはまる場合は○を記入してください。

農地中間管理機構の借り受け	○
消費税に係る課税事業者の該当の有無	

本交付金の活動組織で該当するケースはほとんど無いと考えられますが、課税事業者に該当する場合には、市町村が定める様式で「仕入れに係る消費税等相当額報告書」の提出が必要となります。

当該年度を通じた認定農用地内における農地中間管理機構の借り受け農地の有無により判断して下さい。過年度からの継続保有地も含め、借受、保有、受渡をした全てが対象となります。

別紙

持越金が当該年度交付金の3割を超え、かつ、100万円以上である場合は使用予定表を作成してください。

持越金の使用予定表

農地維持・資源向上（共同）

次年度への持越金が当該年度交付金の３割を超え、かつ、１００万円以上である場合に作成。
算定根拠について、市町村担当者から提出を求められた場合には添付すること。

使用時期	使用内容	使用予定金額		算定根拠
４月	水路の目字詰めで使用する資材の購入	○○○	円	見積書
４月	農道の路面の維持の活動で使用する砂利の購入	○○○	円	見積書
			円	
			円	
			円	
			円	
			円	
			円	
			円	
			円	
計			円	

使用内容を具体的に記入してください。

市町村担当者における妥当性の確認欄

確認結果	担当者記名
上記の内容について、妥当であると認める。	○○市○○課 多面太郎

別紙

持越金が当該年度交付金の3割を超え、かつ、100万円以上である場合は使用予定表を作成してください。

持越金の使用予定表

資源向上（長寿命化）

次年度への持越金が当該年度交付金の３割を超え、かつ、１００万円以上である場合に作成。
算定根拠について、市町村担当者から提出を求められた場合には添付すること。

使用時期	使用内容	使用予定金額		算定根拠
４月	水路更新で使用する資材購入	○○○	円	見積書
			円	
			円	
			円	
			円	
			円	
			円	
			円	
			円	
			円	
			円	
計			円	

使用内容を具体的に記入してください。

市町村担当者における妥当性の確認欄

確認結果	担当者記名
上記の内容について、妥当であると認める。	○○市○○課 多面太郎

（別記１－５様式第１号）　複数集落から構成される活動組織は、必要に応じ集落毎に本様式を作成します。

【参加集落（活動組織）から運営委員会に提出するもの】　農林水産省様式

令和　　年度　多面的機能支払交付金に係る

実施計画、活動報告及び運営委員会による活動報告確認票（○○集

活動報告の確認欄は、活動組織が記入します。
必要に応じて現地確認を行った場合は「○」記入してください。

活動組織の確認者は、確認対象集落とは異なる集落の方としてください。

参加集落（活動組織）	実施計画	策定日	令和　年　月　日	策定者	○
		【１．農地維持支払（地域資源の基礎的保全活動）】 当該年度に実施する活動について「○」を記入し、実施予定時期を記入する。 実施しない場合は、「－」を記入する。（研修等、運営委員会が一括して行う場合も「－」を記入する。以下同じ。） 【２．資源向上支払（地域資源の質的向上を図る共同活動）】及び【３．資源向上支払（施設の長寿命化を図る活動）】 当該年度に実施する活動について「○」を記入し、活動内容及び数量等を記入する。 実施しない場合は、「－」を記入する。			
	活動報告	報告日	令和　年　月　日	報告者	○○集落　○○　○○
		活動を実施した場合は、活動報告欄に「○」を記入する。なお、活動記録を別途提出する。 活動を実施しなかった場合は、活動報告欄に「×」を記入し、「未実施理由」欄に未実施の理由を記入する。 計画外の項目には「－」を記入する。			
運営委員会	活動報告の確認	確認日	令和　年　月　日	確認者	○○運営委員会　○○　○○
		①運営委員会は参加集落（活動組織）から別途提出される活動記録等により、活動報告の記載内容を確認する。 ②活動報告の内容が適正な場合は「○」を記入する。計画に沿った活動が実施されていない場合は、活動を適正に実施するよう指導し、活動の実施を確認する。その結果活動要件が満たされた場合は、「○」を記入する。 ③必要に応じて現地確認を行い、行った場合は現地確認欄に「○」を記入する。			

実施計画欄及び活動報告欄は、参加集落が記入します。

１．農地維持支払交付金（地域資源の基礎的な保全活動）

活動区分		活動項目	実施計画		活動報告		活動報告の確認	
				実施予定時期		未実施理由		現地確認
点検・計画策定		点検	○	４月	○		○	
		年度活動計画の策定	○	４月	○		○	
		担い手農家との話し合い	○	４月	○			
研修		事務・組織運営に関する研修、機械の安全使用に関する研修	－	代表者研修（事務・組織運営等に関する研修）はR５、機械の安全使用に関する研修はＲ６受講予定	－	代表者研修（事務・組織運営等に関する研修）はR５、機械の安全使用に関する研修はＲ６受講予定		
実践活動	農用地	遊休農地発生防止のための保全管理 【遊休農地解消面積】	○ 250 a	７月	○ 20 a		○	○
		畦畔･法面･防風林の草刈り	○	６月、７月、８月	○		○	
		鳥獣害防護柵等の保守管理	○	点検結果に応じて実施時期を決定	○		○	
	水路	水路の草刈り	○	６月、７月、８月	○		○	
		水路の泥上げ	○	４月	○		○	
		水路附帯施設の保守管理	－		－			
	農道	農道の草刈り	○	６月、７月、８月	○		○	
		農道側溝の泥上げ	－		－			
		路面の維持	－		－			
	ため池	ため池の草刈り	－		－			
		ため池の泥上げ	－		－			
		ため池附帯施設の保守管理	－		－			
	共通	異常気象時の対応	○	洪水、台風、地震等の発生後	○			

2．資源向上支払交付金（地域資源の質的向上を図る共同活動）

活動区分		活動項目	実施計画	活動内容、数量等	活動報告	未実施理由	活動報告の確認	現地確認
施設の軽微な補修	機能診断・計画策定	農用地の機能診断	○	4月	○		○	
		水路の機能診断	○	4月	○		○	
		農道の機能診断	○	4月	○		○	
		ため池の機能診断	－		－			
		年度活動計画の策定	○	4月	○		○	
	研修	機能診断･補修技術等に関する研修	○		○			
	実践活動	農用地の軽微な補修等	○	機能診断結果に応じて実施時期を決定	×	機能診断の結果、補修の必要がなかったため未実施		
		水路の軽微な補修等	○	機能診断結果に応じて実施時期を決定	×	機能診断の結果、補修の必要がなかったため未実施		
		農道の軽微な補修等	○	機能診断結果に応じて実施時期を決定	○		○	
		ため池の軽微な補修等	－		－			
農村環境保全活動	実践活動	生態系保全	○	8月　生き物調査実施	○		○	
		水質保全	－		－			
		景観形成・生活環境保全	○	9月　○○クリーン作戦	○		○	
		水田貯留機能増進･地下水かん養	－		－			
		資源循環	－		－			

実施計画欄、活動報告欄は参加集落が記入します。

活動報告の確認欄は、活動組織が記入します。
必要に応じて現地確認を行った場合は「○」を記入して下さい。

3．資源向上支払交付金（施設の長寿命化を図る活動）

活動区分		活動項目	実施計画	活動内容、数量等	活動報告	未実施理由	活動報告の確認	現地確認
実践活動	水路	水路の補修	○	○○－○号線水路の老朽化部分の補修（L=0.85km）	○		○	○
	水路	水路の補修	○	○○用水路を土水路からコンクリート水路への更新	×	水路の補修が想定より難しく、時間がかかることから次年度更新予定		
	農道	農道の補修	○	農道○○－○の路肩及び法面の補修（L=2.50km）	○		○	○
	農道	農道の更新等	－	農道□□－□のアスファルト舗装（L=1.0km）	－			

※参加集落（活動組織）が毎年度それぞれ行おうとする実施計画を運営委員会に提出した後、運営
実施計画によって実施計画の変更があった場合には、変更箇所が分かるように記入すること。

活動組織で調整の結果、活動計画書に位置づけられた取組には「○」を記入して下さい。また、計画に位置づけられなかった活動は「－」など分かるように記入して下さい。

参加集落又は組織が毎年度それぞれ行おうとする活動の計画または要望を記入して下さい。

VI 地域資源保全管理構想

農村の構造変化に対応した保全管理目標を設定して推進活動を実施し、活動期間終了後に農道や水路等が適切に管理できるよう、地域資源保全管理構想を策定します。

【活動のねらい】

農村地域では、過疎化や高齢化、担い手への農地集積の加速化など構造変化が進展しており、今後、農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理を担う地域の人材の不足や担い手への負担の増加により、その保全管理が困難となることが懸念されます。

このため、担い手を含めた地域内の役割分担・協力体制を明確にし、地域資源を地域で支える体制を構築するほか、地域外の人材の確保や連携の取組を進めること等により、将来にわたって持続的に地域資源を保全管理していく必要があります。

【活動内容】

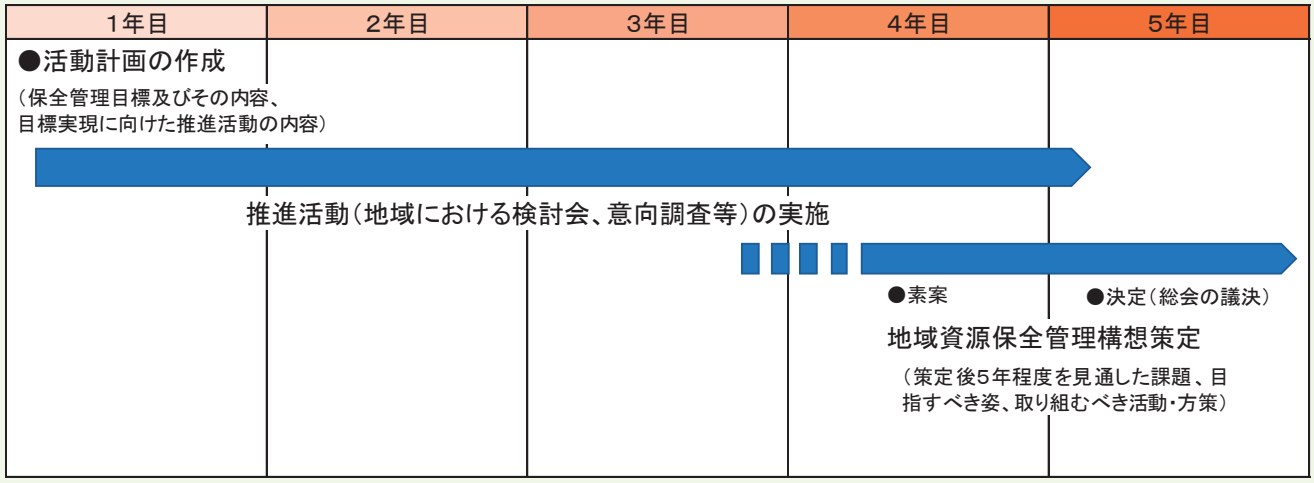
「地域資源の適切な保全管理のための推進活動」は、以下の１～３の手順で実施します。

１　構造変化に対応した保全管理目標とその内容、目標を実現するために実施すべき推進活動の内容等を活動計画書に位置づける

２　計画に位置付けた内容に基づき、地域における話し合いや意向調査等の推進活動を実施

３　推進活動の結果を踏まえて、５年間の活動終了時までに、目指すべき保全管理の姿やそれに向けて取り組むべき活動・方策等を「地域資源保全管理構想」として取りまとめる

地域資源の保全管理のための推進活動の取組スケジュール



各段階の詳細な実施手順は、以下に示すとおりです。

1. 保全管理目標や推進活動の内容を計画に位置づける

地域農業の将来像について地域の皆さんで話し合っていただき、農用地や水路等の地域資源の①保全管理目標を定めます。これを踏まえ、地域ぐるみで取り組んでいくべき②保全管理の内容とその③活動方向を定めた上で、これを実現する具体的な行動として④活動内容を定めます。

これらの項目については以下に示すとおり、想定される主な内容を活動計画書に例示していますので、該当する項目から選択することにより活動計画書に記載します。該当項目が無い場合は、「その他」の項目に具体的な内容を記載します。

① 構造変化に対応した保全管理の目標の設定

	類型	保全管理目標	該当地域等
□	中心経営体型	地域内の中心経営体の育成・確保、農地集積を図り、中心経営体との役割分担や労力補完により保全管理を図る。	「人・農地プラン」の「今後の地域の中心となる経営体」に相当する経営体である「中心経営体」との役割分担や労力補完を図る地域等が該当
□	集落ぐるみ型	集落営農組織の構築・充実等を図り、集落を基礎とした農業生産体制の整備と合わせた地域ぐるみの保全管理を図る。	多数の小規模農家、兼業農家等が参画する形での集落単位の営農と一体的あるいは連携した取組を図る地域等が該当
□	地域外経営体連携型	地域外の農業生産法人や認定農業者等への農地集積を図り、地域外の経営体との協力・役割分担により保全管理を図る。	地域外の大規模経営体等の入り作者と地域内の農業者等との連携を図る地域等が該当
□	集落間・広域連携型	広域的な農地利用の調整、近隣集落との連携、旧村や水系単位等での連携を図り、集落間の相互の労力補完や広域的な活動により保全管理を図る。	活力ある周辺集落との連携、複数集落で個々の集落を広域的に支え合う体制の構築を図る地域等が該当
□	多様な参画・連携型	地域住民の参画、地域外の団体や都市住民等との連携を図り、地域外を含め多様な地域資源管理の担い手の確保により保全管理を図る。	資源向上支払で多様な主体の参画による保全管理を進める地域や、NPO法人、企業等との連携により農業生産の継続を図る地域等が該当
□	―	その他（地域の実情に応じた目標を対象組織が具体的に設定）	

② 保全管理の内容

今後、地域資源の適切な保全管理を図っていくため、地域で取り組んでいくべき保全管理の内容を選択します。

（1項目以上選択）

- □ 農地の利用集積の進展に伴う農用地に係る管理作業
- □ 高齢化の進行に伴う高齢農家の農用地に係る管理作業
- □ 不在村地主等の遊休農地に係る管理作業
- □ 農業者、地域住民等が担う共同利用施設の保全管理
- □ その他（例：景観保全に資する地域ぐるみで行う農用地・施設の管理、農地集積や水田フル活用に対応した農業用水の適正管理　等）

③ 活動の方向

保全管理の内容で選択した事項に取り組むために、今後進めていく方向性を選択します。

（1項目以上選択）

- □ 担い手との連携の強化、担い手の人材・機材を有効活用した活動の実施
- □ 入り作等の近隣の担い手との協力・役割分担に基づく活動の実施
- □ 地域住民、土地持ち非農家等を含めた体制づくり、活動の実施
- □ 地域住民、新規・定年就農者等、新たな保全管理の担い手の確保
- □ 不在村地主との連絡・調整体制の構築、遊休農地等の有効活用
- □ 隣接集落との連携による相互の労力補完、広域的な活動の実施
- □ その他（地域の実情に応じて対象組織が具体的に設定）

④ 活動内容

保全管理の内容で選択した事項に取り組むために、具体的に行う推進活動内容について選択します。

（1項目以上選択）

- □ 農業者（入り作農家、土地持ち非農家を含む）による検討会
- □ 農業者に対する意向調査、農業者による現地調査
- □ 不在村地主との連絡体制の整備、調整、それに必要な調査
- □ 地域住民等（集落外の住民・組織等も含む）との意見交換・ワークショップ・交流会
- □ 地域住民等に対する意向調査、地域住民等との集落内調査
- □ 有識者等による研修会、有識者を交えた検討会
- □ その他（　例：地域外の団体、都市住民、企業との交流・連携を図る活動　等）

2. 推進活動の実施

「地域資源の適切な保全管理のための推進活動」は、活動期間中に作成する必要のある「地域資源保全管理構想」を策定する上で重要な活動となります。

このため、活動計画に基づく推進活動の実施に当たっては、次の３．に示す「地域資源保全管理構想」の作成内容を念頭におき、地域における話し合い、検討会の開催、アンケート調査、現地調査等の推進活動を毎年度実施します。

活動を実施した際には、実施日時や内容を活動記録（実施要領様式第１－６号）に記載するとともに、会議資料や議事録、調査結果等の資料を保存しておいてください。市町村が活動の実施状況の確認を行う際の根拠資料として用いるほか、翌年度以降の推進活動の実施や地域資源保全管理構想策定時の基礎資料として重要な資料となるものです。

話し合いの内容や調査結果については、総会等で構成員に周知しましょう。

3. 地域資源保全管理構想の策定

（1）地域資源保全管理構想とは

「地域資源保全管理構想」は、それぞれの地域で守ってきた農用地や水路、農道等の地域資源を、将来にわたってどのように引き継いでいけば良いのか、地域で話し合っていただき、構想としてまとめていただくものです。

具体的な記載内容としては以下のとおりであり、人・農地プランや市町村が定めるビジョン等で整理された農業振興や担い手の育成・確保の方向を踏まえ、話し合いを深めて作成します。

構想は、「地域資源の適切な保全管理のための推進活動」の成果を踏まえ、5年間の活動期間の最終年度までに、今後の目指すべき保全管理の姿やこの姿の実現に向けた活動・方策について取りまとめてください。

（別添）

○○地区地域資源保全管理構想
（○年○月作成）

1．地域で保全管理していく農用地及び施設
（1）農用地
（2）水路、農道、ため池
（3）その他施設等

・対象とする農用地、施設の範囲、数量、位置を記載する。
・「その他施設等」には、鳥獣害防止施設、防風林等その他の地域で保全管理していく施設について記載する。

2．地域の共同活動で行う保全管理活動
（1）農用地について行う活動
（2）水路、農道、ため池について行う活動
（3）その他施設について行う活動

・対象とする活動の範囲、内容を記載する。

3．地域の共同活動の実施体制
（1）組織の構成員、意思決定方法
（2）構成員の役割分担
① 農用地について行う活動
② 水路、農道、ため池について行う活動
③ その他施設について行う活動

・担い手農家、それ以外の農家、土地持ち非農家、地域住民等の参画等を記載する。

4．地域農業の担い手の育成・確保
（1）担い手農家の育成・確保
（2）農地の利用集積

・人・農地プラン等を基に、担い手農家、農地集積の現状及び目標を記載する。

5．適切な保全管理に向けて取り組む活動・方策

・作成後５年程度を見通し、今後の課題、目指すべき姿、そのために取り組むべき活動・方策を記載する。

（取り組むべき活動・方策の例）
・組織体制の強化や活動の拡大を図るための広域組織化やＮＰＯ法人化
・農地や施設、地域環境を保全するための農地周辺部の活動拡大や遊休農地の有効利用
・地域を守る取組の魅力を情報発信する活動、活動への新たな参画者を募る活動
・地域の景観・環境の維持等、地域資源の魅力を高め、関心を高める活動
・保全管理の省力化のための簡易な基盤整備や機械化、保全管理に必要な施設整備

※ ため池やその他施設等は、該当がない場合は、項目を削除する。

（2）組織での話し合いの進め方

構想の策定に向けては、5年間の活動期間中に実施する推進活動等により、地域農業の将来のあり方について継続的に話し合いを積み重ねていく必要があります。

①話し合いの場の設定

・まずは、入り作農家を含めた農業者と土地持ち非農家を中心とした検討会を行います。
・その際、役員だけではなく、地域住民や女性、若手等の参加を求めることが重要です。
・また、できるだけ多くの方が出席できる日付や時間帯を考慮して設定します。
・進行役と発言要旨を記録する担当者をあらかじめ決めておきます。

②資料の準備

・議論の土台として、活動計画に位置付けている保全管理目標と推進活動の内容について資料として配布し周知します。保全対象施設の位置図や一覧表も準備しておきます。
・また、これまでの推進活動において検討会や意向調査等を実施している場合、それらの資料を準備します。
・人・農地プランや市町村が定めるビジョン等の抜粋があると、方向性の決定の際に参考になります。

③課題の抽出

・用意した資料を参考に、地域資源の保全管理を取り巻く状況やこれまで行った意向調査等の結果を踏まえ、地域における共同活動でどのような課題（施設の状態、作業体制、活動内容、年齢構成等）があるのかを参加者から発言してもらい、構想作成から５年程度を見通して想定される課題について議論し取りまとめます。

④課題解決に向け取り組むべき活動・方策の検討

・課題の解決に向けて取り組むべき活動・方策について検討します。
・検討の方向性を決める際の参考とするため、必要に応じて、推進活動として実施するアンケート調査とは別に、農業者や地域住民を対象とした意向調査等を実施します。
・取り組むべき活動・方策が決まったら、「地域資源保全管理構想」の案を取りまとめ、組織の総会等において構成員の合意を得ます。

（3）地域資源保全管理構想の策定

（2）で検討した内容を所定の様式に取りまとめます。
次のページに記載例を示します。（青字部分が記載例）

○○地区地域資源保全管理構想
（○年○月作成）

1. 地域で保全管理していく農用地及び施設
（1）農用地
田　○a
畑　○a
草地　○a
（農用地の範囲・位置は別紙のとおり）
（2）水路、農道、ため池
水路　○km（開水路　○km、パイプライン　○km）
農道　○km
ため池　○箇所
（施設の範囲・位置は別紙のとおり）
（3）その他施設等
鳥獣害防護柵　○箇所
防風林　○箇所
防風ネット　○箇所
（施設の範囲・位置は別紙のとおり）

・対象とする農用地、施設の範囲、数量、位置を記載する。
・「その他施設等」には、鳥獣害防止施設、防風林等その他の地域で保全管理していく施設について記載する。

2. 地域の共同活動で行う保全管理活動

（1）農用地について行う活動
・遊休農地等の発生状況の把握　毎年1回（5月）
・遊休農地発生防止のための保全活動　毎年1回（6月）
・畦畔・農用地法面の草刈　毎年1回（5月）
・異常気象時の見回り　洪水、台風、地震等の発生後
・応急措置　点検結果に応じて実施時期を決定
（活動の範囲は別紙のとおり）

対象とする活動の範囲、内容を記載する。

（2）水路、農道、ため池について行う活動
1）水路
・水路の草刈　毎年3回（6月、8月、9月）
・水路の泥上げ　毎年1回（4月）
・施設の適正管理（かんがい期前の注油）　毎年1回（4月）
・異常気象時の見回り　洪水、台風、地震等の発生後
・応急措置　点検結果に応じて実施時期を決定
（活動の範囲は別紙のとおり）
2）農道
・路肩、法面の草刈　毎年3回（6月、8月、9月）
・側溝の泥上げ　毎年1回（4月）
・施設の適正管理（農道の路面維持）　点検結果に応じて実施時期を決定
・異常気象時の見回り　洪水、台風、地震等の発生後
・応急措置　点検結果に応じて実施時期を決定
（活動の範囲は別紙のとおり）
（3）その他施設について行う活動
・鳥獣害防護柵の適正管理　毎年3回（6月、8月、9月）
・防風林の枝払い　毎年1回（4月）
・防風ネットの適正管理　毎年1回（4月）
（活動の範囲は別紙のとおり）

3. 地域の共同活動の実施体制

（1）組織の構成員、意思決定方法

・組織の構成員は別紙のとおりとする。

・組織の意思決定は総会により行う。

担い手農家、それ以外の農家、土地持ち非農家、地域住民等の参画等を記載する。

（2）構成員の役割分担

活動項目＼構成員区分	農業者（担い手）	農業者（担い手以外）	土地持ち非農家	地域住民	その他（　　）
①農用地について行う活動	■	■	□	□	□
・遊休農地等の発生状況の把握	■	■	□	□	□
・遊休農地発生防止のための保全活動	■	■	□	□	□
・畦畔・農用地法面の草刈	■	■	□	□	□
・異常気象時の見回り	■	■	□	□	□
・応急措置	■	■	□	□	□
② 水路、農道、ため池について行う活動					
1）水路					
・水路の草刈	■	■	■	■	□
・水路の泥上げ	■	■	■	■	□
・施設の適正管理（かんがい期前の注水）	■	■	□	□	□
・異常気象時の見回り	■	■	□	□	□
・応急措置	■	■	□	□	□
2）農道					
・路肩、法面の草刈	■	■	■	■	□
・側溝の泥上げ	■	■	■	■	□
・施設の適正管理（農道の路面維持）	■	■	■	■	□
・異常気象時の見回り	■	■	□	□	□
・応急措置	■	■	□	□	□
③ その他施設について行う活動					
・鳥獣害防護柵の適正管理	■	■	□	□	□
・防風林の枝払い	■	■	□	□	□
・防風ネットの適正管理	■	■	□	□	□

4. 地域農業の担い手の育成・確保

（1）担い手農家の育成・確保

【現状の例】

・令和〇〇年における認定農業者数は、家族経営〇〇経営体、法人経営〇〇経営体。

・認定農業者への農業継続意向調査によると、「経営の継続が困難」と考えている農業者が〇名おり、このままでは5年後には〇〇経営体となることが見込まれる。

【目標の例】

・〇〇の施策の活用や〇〇の取組により認定農業者、新規就農者の育成・確保に努めることとし、〇〇年度において〇〇経営体（うち法人〇〇経営体）とすることを目標とする。

・法人化を進め、令和〇〇年までに新たに〇〇法人の設立を目指す。

・〇〇集落では、令和〇〇年までに、集落の全ての農家が参画した集落営農の組織化により〇〇作業の共同化を目指す。

2）農地の利用集積

【現状の例】

・担い手への農地集積率が〇割と低位にとどまっている。

・担い手への農地集積率は〇割であるが、農地が分散している状況。

【目標の例】

・農地中間管理機構と市、JAが連携して話し合いを進め、地域内の分散錯綜した農地について面的集積を図りつつ担い手に集積することとし、令和〇〇年における担い手集積率〇%を目指す。

・併せて〇〇事業を活用した農地の畦畔除去による大区画化を図ることにより、担い手農家への農地集積と経営規模拡大に対応。

作成後５年程度を見通し、今後の課題、目指すべき姿、そのために取り組むべき活動・方策を記載する。

5. 適切な保全管理に向けて取り組む活動・方策

【今後の課題、目指すべき姿の例】

・過疎化や高齢化に伴う農家戸数の減少により、共同活動を前提としていた施設の維持管理が困難となっている。地域住民を巻き込んだ施設の維持管理体制を構築するため、地域住民とのコミュニケーションを深める必要がある。

・集落内には小規模農家、兼業農家しかいないため、隣接する〇〇集落の大規模法人に集積して地域の農業、農地を維持するとともに、地域内の農業者と地域外の担い手の適切な役割分担に基づき地域資源を保全管理する必要がある。

・構成員の高齢化、非農業者の増加により、農地法面の草刈や水路の泥上げ等の地域資源の保全管理活動への参加者が減少傾向となっており、少ない人数で効率的に保全活動が行えるよう維持管理の省力化や低コスト化を図る必要がある。

・離農や後継者不足による耕作面積の縮小により、耕作放棄地の発生・拡大が懸念されており、耕作放棄地の発生防止・解消に向けた取組を強化する必要がある。

・ほ場整備事業の完了から〇〇年が経過し、水路等の施設の老朽化が顕著となっており、施設の長寿命化に継続的に取り組んでいく必要がある。

・集落機能の低下とともに、農村の自然環境に関する意識が薄れており、豊かな生態系が失われることが危惧される。地域の自然環境を保全するため、〇〇等と連携した〇〇活動を行う必要がある。

・5年後の地域をまとめるリーダーや役員のなり手がおらず、後任の育成が急務となっている。

【取り組むべき活動・方策の例】

・3の（2）の役割分担に基づき地域資源の保全管理を図る。

・地域資源の保全管理体制の強化に向け活動組織の広域化を進める（NPO法人化を図る）とともに、これに併せて〇〇活動の担い手として〇〇団体の参画を得ることとする。

・農地を保全するための農地周辺部における活動として新たに〇〇の駆除に取り組むこととする。

・遊休農地を活用し〇〇を栽培することで、農地の保全を図るとともに、観光資源や地域特産品として活用する。

・年に〇回、町の広報誌に保全活動の紹介記事を掲載し、地域を守る取組の魅力を情報発信する。

・地域の生態系の保全に資する〇〇活動について、〇〇を活用して積極的にPRすることにより、地域住民の参画を促す。

・植栽活動や清掃活動を通じ、地域の景観を良好に保つとともに、「自分たちの地域は自分たちが守る」という意識を地域住民に醸成し、これまで活動に参加していなかった方に水路や農道等の施設の保全活動への参加を促す。

・学校教育と連携し、子供たちに農業用施設の役割や保全管理の重要性について学び理解を深めてもらう。

・保全管理の省力化に向け、〇〇事業を活用した簡易な基盤整備により〇〇を整備する。

・保全管理の省力化に向け、草刈作業については〇〇農業法人が所有するモアを用いて実施する。

（別記1－4様式）

○○地区地域資源保全管理構想

（令和○年○月作成）

あくまでも参考様式です。
詳細な内容については、地域の状況により検討してください。

1. 地域で保全していく農用地及び施設

（1）農用地

認定農用地面積（集落の管理する農用地）	田	畑	草地	計	遊休農用地
	a	a	a	0 a	a

（2）水路、農道、ため池

農業用施設	水路		農道	ため池
	開水路	パイプライン		
	km	km	km	箇所

（3）その他の施設

その他施設	鳥獣害防護柵	防風ネット	揚水ポンプ	○○○
	km	km	台	○

2. 地域の共同活動で行う保全管理活動

活動区分		活動項目	実施時期
点検		遊休農地等の発生状況、対象施設における泥の堆積状況等を点検し、毎年記録管理する。	毎年　回（　、　月）
（1）農用地	遊休農地発生防止のための保全管理	遊休農地発生防止のための保全管理等を実施する。	毎年　回（　、　月）
	畦畔・農用地法面・防風林等の草刈り	畦畔・農用地法面等の草刈り等を実施する。	毎年　回（　、　月）
	施設の適正管理	鳥獣害防護柵等の適正管理等、必要な取組を実施する。	点検結果に応じて実施時期を決定
（2）①水路	水路の草刈り	水路及び付帯施設（ポンプ場、調整施設等）やその周辺部の草刈りを実施する。	毎年　回（　、　月）
	水路の泥上げ	水路及びポンプ吸水槽等の泥上げを実施する。	毎年　回
	施設の適正管理	ゲート類等の保守管理の徹底等、必要な取組を実施する。	点検結果に応じて実施時期を決定
（2）②農道	路肩、法面の草刈り	路肩・法面の草刈りを実施する。	毎年　回（　、　月）
	側溝の泥上げ	点検結果に基づいて、側溝の泥上げを実施する。	毎年　回
	施設の適正管理	農道の路面維持等、必要な取組を実施する。	点検結果に応じて実施時期を決定

（2）③ため池	ため池の草刈り	草刈りを実施する。	毎年　　回 （　　、　　月）
	ため池の泥上げ	点検結果に基づいて、泥上げを実施する。	毎年　　回
	施設の適正管理	かんがい期前の付帯施設の清掃・除塵等、必要な取組を実施する。	点検結果に応じて実施時期を決定
（3）その他	鳥獣害防護柵	防護柵周辺の下草刈りを実施する。	毎年　　回 （　　、　　月）
	防風ネット	防風ネット周辺の下草刈りを実施する。	毎年　　回 （　　、　　月）
	揚水ポンプ	ポンプ吸水槽の泥上げを実施する。	毎年　　回 （　　、　　月）

3. 地域の共同活動の実施体制

（1）組織の構成員、意思決定方法

1）組織の構成員

別添構成員一覧のとおり

2）意思決定方法

別添規約のとおり

（2）構成員の役割分担

対象施設	構成員
農用地	□　担い手農家
	□　それ以外の農家
	□　土地持ち非農家
	□　非農家（一般住民）
	□　その他（　子ども会　）
	□　その他（　　）
水路（開水路）	□　担い手農家
	□　それ以外の農家
	□　土地持ち非農家
	□　非農家（一般住民）
	□　その他（　子ども会　）
	□　その他（　　）
水路（パイプライン）	□　担い手農家
	□　それ以外の農家
	□　土地持ち非農家
	□　非農家（一般住民）
	□　その他（　子ども会　）
	□　その他（　　）

対象施設	構成員
農道	□　担い手農家
	□　それ以外の農家
	□　土地持ち非農家
	□　非農家（一般住民）
	□　その他（　子ども会　）
	□　その他（　　）
ため池	□　担い手農家
	□　それ以外の農家
	□　土地持ち非農家
	□　非農家（一般住民）
	□　その他（　子ども会　）
	□　その他（　　）
その他（　　）	□　担い手農家
	□　それ以外の農家
	□　土地持ち非農家
	□　非農家（一般住民）
	□　その他（　子ども会　）
	□　その他（　　）

4. 地域農業の担い手の育成・確保

詳細な内容については、地域の状況により検討してください。

（1）担い手農家の育成・確保

①	□	既存集落営農組織がある場合	□ 既存集落営農組織に地域の小規模農家、兼業農家全てが参画する。
			□ 法人化による経営意識の向上、地域の若者や女性の参画による円滑な世帯交代の仕組みづくりを行う。
			□ 近隣の集落営農組織との連携により組織を強化する。
②	□	個別経営の担い手が存在する場合	担い手の効率的な営農のため、活動組織は農地の利用調整と施設（用排水路、道路）の保全管理に協力する。
③	□	集落営農組織も担い手も存在する場合	集落営農組織と個別経営の担い手間の農地利用調整や相互作業の受託により、効率的な営農の展開により地域担い手を強化する。
④	□	集落営農組織も担い手の確保も困難な場合	集落外部の担い手に水田基幹作業をまとめて委託し、日常管理作業を委託集落側が行い、活動組織は、施設（用排水路、道路）の保全管理に協力する。
⑤	□		

（2）農地の利用集積

①	□	既存集落営農組織がある場合	□ 既存集落営農組織に地域の小規模農家、兼業農家全てが利用集積することで利用調整する。
			□ 近隣の集落営農組織との連携により広域で利用調整する。
②	□	個別経営の担い手が存在する場合	個別経営の担い手へ農地の利用調整を図る。
③	□	集落営農組織も担い手も存在する場合	集落営農組織と個別経営の担い手間の農地利用調整を図る。
④	□	集落営農組織も担い手の確保も困難な場合	集落外部の担い手へ農地の利用調整を図る。
⑤	□		

5. 適切な保全管理に向けて取り組む活動・方策

詳細な内容については、地域の状況により検討してください。

（1）組織の体制強化

（1）	□	組織体制の強化を図る方策	既存集落営農組織がある場合	□ 地域の小規模農家、兼業農家全てが集落営農組織に参画することで、地域の農業生産体制を整備強化し、集落営農組織との協力と役割分担により、集落ぐるみの保全管理の強化を図る。
				□ 近隣集落の集落営農組織との連携により地域の農業生産体制を整備強化し、集落営農組織との協力と役割分担により、保全管理体制を図る。
				□ 近隣集落の集落営農組織との連携により地域の農業生産体制を整備強化し、併せて活動組織も近隣集落と連携することで集落営農組織との協力と役割分担により、保全管理体制を図る。
				□ 地域外の農業生産法人や担い手との連携により地域農業生産体制を整備強化し、集落営農組織、農業生産法人あるいは担い手との協力と役割分担により保全管理体制の強化を図る。
			個別経営の担い手が存在する場合	□ 担い手との協力・役割分担により保全管理を図る。
				□ 担い手に更なる農地集積・集約を進める地域の農業生産体制を整備強化し、担い手との協力・役割分担により保全管理を図る。

（1）	□	組織体制の強化を図る方策	集落営農組織も担い手も存在する場合	□ 農地中間管理事業を活用し、農地の集約を進め地域の農業生産体制を整備強化し、集落営農組織、担い手との協力と役割分担により保全管理体制の強化を図る。
			集落営農組織も担い手の確保も困難な場合	□ 地域の小規模農家、兼業農家全てが集落営農組織を設立することで、地域の農業生産体制を整備強化し、集落営農組織との協力と役割分担により、集落ぐるみの保全管理体制の強化を図る。
				□ 「人・農地プラン」を策定し、今後の地域の中心となる担い手との協力・役割分担により保全管理を図る。
				□ 地域外の農業生産法人や担い手へ農地集積を図り、地域外の経営体との協力・役割分担により保全管理の強化を図る。
	□	広域組織化やNPO法人化		□ 広域組織化の検討を行う。
				□ 活動組織の広域化に伴い、NPO法人化する。
	□			□

（2）農地や施設の保全

（2）	□	農地周辺部の活動拡大	□ 農地周辺部の林地等の整備保全を別事業により実施し、地域環境の保全に併せ獣害対策の一環とすることで、農用地及び施設の保全を図る		
	□	遊休農地の有効利用	□ 遊休農地での栽培	作物名	
	□		□		

（3）情報発信、新たな参画

（3）	□	活動組織のHPを活用し、取組内容の紹介や地域の魅力を発信することで、外部の活動参画者を募集し、保全管理活動の継続や強化を図る。
	□	地域内の一般住民に対して、保全管理活動が地域を守る活動であることを広報紙やHPで発信することで、これまで活動に参加されていない人々の参加を促し、保全管理活動の継続や強化を図る。
	□	

（4）地域の景観・環境の維持、田園風景百選の保全、活用

（4）	□	地域の景観・環境を維持し、地域の魅力として情報発信することで、地域外の人々の関心を高め、これまで参加されていない人々の参画を促し、保全管理活動の継続や強化を図る。
	□	田園風景百選地域の景観・環境を維持し、地域の魅力として情報発信することで、地域外の人々の関心を高め、これまで参加されていない人々の参画を促し、保全管理活動の継続や強化を図る。
	□	

（5）生態系の維持保全、活用

（5）	□	生き物調査等の活動を通して、地域の魅力として情報発信することで、地域外の人々の関心を高め、学校等と連携し、保全管理活動の継続や強化を図る。
	□	生態系保全の活動を通して、地域の魅力として情報発信することで、地域外の人々の関心を高め、これまで参加されていない人々の参画を促し、保全管理活動の継続や強化を図る。
	□	

（6）その他

（6）	□	畦畔除去による区画拡大により、農用地の条件を向上することで担い手の農地集積を進め、地域の農業生産体制を整備強化し、集落ぐるみで保全管理体制の強化を図る。	
	□	企業との連携	
	□	都市住民との交流	
	□	農産物ブランド化	
	□	田んぼダム	
	□	その他	
	□		

Ⅶ 活動項目番号表

活動組織は、活動項目番号表を参考に活動計画書や活動記録等を作成します。

活動項目番号表

	活動項目番号
事務処理	200
会議など	300

【農地維持活動】
（地域資源の基礎的な保全活動）

支払区分	活動区分		活動項目	活動項目番号	取組の内容（平成30年度までの取組名）
1（農地維持）	点検・計画策定	点検	点検	1	遊休農地等の発生状況の把握
					施設の点検（水路、農道、ため池）
		計画策定	年度活動計画の策定	2	年度活動計画の策定
	研修		事務・組織運営等に関する研修、機械の安全使用に関する研修	3	活動に関する事務（書類作成、申請手続き等）や組織の運営に関する研修
	実践活動	農用地	遊休農地発生防止のための保全管理	4	遊休農地発生防止のための保全管理
			畦畔・法面・防風林の草刈り	5	畦畔・農用地法面等の草刈り
					防風林の枝払い・下草の草刈り
			鳥獣害防護柵等の保守管理	6	鳥獣害防護柵の適正管理
					防風ネットの適正管理
			機械除草部分の拡大（農用地）	100	機械除草部分の拡大（農用地）
		水路	水路の草刈り	7	水路の草刈り
					ポンプ場、調整施設等の草刈り
			水路の泥上げ	8	水路の泥上げ
					ポンプ吸水槽等の泥上げ
			水路附帯施設の保守管理	9	かんがい期前の注油
					ゲート類等の保守管理
					遮光施設の適正管理
			機械除草部分の拡大（水路）	101	機械除草部分の拡大（水路）
			土水路の維持・管理	102	土水路の維持・管理
			水路内の隠れ場確保	103	水路内の隠れ場確保
		農道	農道の草刈り	10	路肩・法面の草刈り
			農道側溝の泥上げ	11	側溝の泥上げ
			路面の維持	12	路面の維持
			機械除草部分の拡大（農道）	104	機械除草部分の拡大（農道）
		ため池	ため池の草刈り	13	ため池の草刈り
			ため池の泥上げ	14	ため池の泥上げ
			ため池附帯施設の保守管理	15	かんがい期前の施設の清掃・防塵
					管理道路の管理
					遮光施設の適正管理
					ゲート類の保守管理
			機械除草部分の拡大（ため池）	105	機械除草部分の拡大（ため池）
		共通	異常気象時の対応	16	異常気象後の見回り（農用地、水路、農道、ため池）
					異常気象後の応急措置（農用地、水路、農道、ため池）

（地域資源の適切な保全管理のための推進活動）

支払区分	活動区分	活動項目	活動項目番号	取組の内容（平成30年度までの取組名）
1（農地維持）	推進活動	農業者の検討会の開催	17	農業者（入り作農家、土地持ち非農家を含む）による検討会の開催
		農業者に対する意向調査、現地調査	18	農業者に対する意向調査、農業者による現地調査
		不在村地主との連絡体制の整備等	19	不在村地主との連絡体制の整備、調整、それに必要な調査
		集落外住民や地域住民との意見交換等	20	地域住民等（集落外の住民・組織等も含む）との意見交換・ワークショップ・交流会の開催
		地域住民等に対する意向調査等	21	地域住民等に対する意向調査、地域住民等との集落内調査
		有識者等による研修会、検討会の開催	22	有識者等による研修会、有識者を交えた検討会の開催
		その他	23	–

【資源向上活動（地域資源の質的向上を図る共同活動）】
（施設の軽微な補修）

支払区分	活動区分		活動項目	活動項目番号	取組の内容（平成30年度までの取組名）
2（資源向上）	機能診断・計画策定	機能診断	農用地の機能診断	24	施設の機能診断（農用地） 診断結果の記録管理（農用地）
			水路の機能診断	25	施設の機能診断（水路） 診断結果の記録管理（水路）
			農道の機能診断	26	施設の機能診断（農道） 診断結果の記録管理（農道）
			ため池の機能診断	27	施設の機能診断（ため池） 診断結果の記録管理（ため池）
		計画策定	年度活動計画の策定	28	年度活動計画の策定
	研修		機能診断・補修技術等に関する研修	29	対象組織による自主的な機能診断及び簡単な補修に関する研修 老朽化が進む施設の長寿命化のための補修、更新等に関する研修 農業用水の保全、農地の保全や地域環境の保全に資する新たな施設の設置等に関する研修
	実践活動	農用地	農用地の軽微な補修等	30	畦畔の再構築 農用地法面の初期補修 暗渠施設の清掃 農用地の除れき 鳥獣害防護柵の補修・設置 防風ネットの補修・設置 きめ細やかな雑草対策
		水路	水路の軽微な補修等	31	水路側壁のはらみ修正 目地詰め 表面劣化に対するコーティング等 不同沈下に対する早期対応 側壁の裏込材の充填、水路耕畔の補修 水路に付着した藻等の除去 水路法面の初期補修 破損施設の補修（水路） きめ細やかな雑草対策（水路） パイプラインの破損施設の補修 パイプ内の清掃 給水栓ボックス基礎部の補強 破損施設の補修（水路の附帯施設） 給水栓に対する凍結防止対策 空気弁等への腐食防止剤の塗布等 遮光施設の補修等
		農道	農道の軽微な補修等	32	路肩、法面の初期補修 軌道等の運搬施設の維持補修 破損施設の補修（農道） きめ細やかな雑草対策（農道） 側溝の目地詰め 側溝の不同沈下への早期対応 側溝の裏込材の充填 破損施設の補修（農道の附帯施設）
		ため池	ため池の軽微な補修等	33	遮水シートの補修 コンクリート構造物の目地詰め コンクリート構造物の表面劣化への対応 堤体侵食の早期補修 破損施設の補修（ため池の堤体） きめ細やかな雑草対策（ため池の堤体） 破損施設の補修（ため池の附帯施設） 遮光施設の補修等

（農村環境保全活動）

支払区分	活動区分	テーマ	活動項目	活動項目番号	取組の内容（平成30年度までの取組名）
2（資源向上）	計画策定	生態系保全	生物多様性保全計画の策定	34	生物多様性保全計画の策定
		水質保全	水質保全計画、農地保全計画の策定	35	水質保全計画の策定 農地の保全に係る計画の策定
		景観形成・生活環境保全	景観形成計画、生活環境保全計画の策定	36	景観形成、生活環境保全計画の策定
		水田貯留機能増進・地下水かん養	水田貯留機能増進計画、地下水かん養活動計画の策定	37	水田貯留機能増進に係る地域計画の策定 地下水かん養に係る地域計画の策定
		資源循環	資源循環計画の策定	38	資源循環に係る地域計画の策定
	実践活動	生態系保全	生物の生息状況の把握	39	生物の生息状況の把握
			外来種の駆除	40	外来種の駆除
			その他（生態系保全）	41	生物多様性保全に配慮した施設の適正管理 水田を活用した生息環境の提供 生物の生活史を考慮した適正管理 放流・植栽を通じた在来生物の育成 希少種の監視
		水質保全	水質モニタリングの実施・記録管理	42	水質モニタリングの実施・記録管理
			畑からの土砂流出対策	43	排水路沿いの林地帯等の適正管理 沈砂池の適正管理 土壌流出防止のためのグリーンベルト等の適正管理
			その他（水質保全）	44	水質保全を考慮した施設の適正管理 水田からの排水（濁水）管理 循環かんがいの実施 非かんがい期における通水 管理作業の省力化による水資源の保全
		景観形成・生活環境保全	植栽等の景観形成活動	45	景観形成のための施設への植栽等 農用地等を活用した景観形成活動
			施設等の定期的な巡回点検・清掃	46	施設等の定期的な巡回点検・清掃
			その他（景観形成・生活環境保全）	47	農業用水の地域用水としての利用・管理 伝統的施設や農法の保全・実施 農用地からの風塵の防止活動
		水田貯留機能増進・地下水かん養	水田の貯留機能向上活動	48	水田の貯留機能向上活動
			水田の地下水かん養機能向上活動、水源かん養林の保全	49	水田の地下水かん養機能向上活動 水源かん養林の保全
		資源循環	地域資源の活用・資源循環活動	50	地域資源の活用・資源循環のための活動
	啓発・普及		啓発・普及活動	51	広報活動 啓発活動 地域住民等との交流活動 学校教育等との連携 行政機関等との連携 地域内の規制等の取り決め

（多面的機能の増進を図る活動）

支払区分	活動区分	活動項目	活動項目番号	取組の内容（平成30年度までの取組名）
2（資源向上）	増進活動	遊休農地の有効活用	52	遊休農地の有効活用
		鳥獣被害防止対策及び環境改善活動の強化	53	農地周りの共同活動の強化
		地域住民による直営施工	54	地域住民による直営施工
		防災・減災力の強化	55	防災・減災力の強化
		農村環境保全活動の幅広い展開	56	農村環境保全活動の幅広い展開
		やすらぎ・福祉及び教育機能の活用	57	医療・福祉との連携
		農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化	58	農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化
		都道府県、市町村が特に認める活動	59	都道府県、市町村が特に認める活動
		広報活動・農的関係人口の拡大	60	広報活動・農的関係人口の拡大

【資源向上活動（施設の長寿命化のための活動）】

支払区分	活動区分	施設区分	活動項目	取組番号	取組の内容（平成30年度までの取組名）
3（長寿命化）	実践活動（集落が管理する施設）	水路	水路の補修	61	水路の破損部分の補修
					水路の老朽化部分の補修
					水路側壁の嵩上げ
					U字フリューム等既設水路の再布設
					集水枡、分水枡の補修
					ゲート、ポンプの補修
					安全施設の補修
			水路の更新等	62	素掘り水路からコンクリート水路への更新
					水路の更新
					ゲート、ポンプの更新
					安全施設の設置
			取水施設の補修	106	取水施設の補修
			取水施設の更新等	107	取水施設の更新等
		農道	農道の補修	63	農道路肩、農道法面の補修
					舗装の打換え（一部）
					農道側溝の補修
			農道の更新等	64	未舗装農道を舗装（砂利、コンクリート、アスファルト）
					側溝蓋の設置
					土側溝をコンクリート側溝に更新
		ため池	ため池の補修	65	洗掘箇所の補修
					漏水箇所の補修
					取水施設の補修
					洪水吐の補修
					安全施設の補修
			ため池（附帯施設）の更新等	66	ゲート・バルブの更新
					安全施設の設置
			ため池の浚渫	108	ため池の浚渫
	実践活動（農地に係る施設）	用水施設	給水施設等の補修	109	給水施設等の補修
			給水施設等の更新等	110	給水施設等の更新等
		排水施設	暗渠排水の補修	111	暗渠排水の補修
			暗渠排水の更新等	112	暗渠排水の更新等

Ⅷ 活動における注意事項等

（1） 点検、機能診断の取りまとめ

施設を適正に維持し、能力を発揮させるため、点検機能診断に基づき施設保全を行いましょう。また、点検機能診断の結果は記録管理しましょう。

【参考】施設ごとの主な点検・診断項目表

施　　設	点検	機能診断
農用地	□ 遊休農地等の発生状況の把握	□ 農用地法面： 浸食や水みちが見られないか □ 畦畔： 崩れたり、低くなってないか □ 鳥獣害防止柵、防風ネット等の施設の破損はないか □ 暗渠施設の出口は、詰まっていないか
開水路 （ゲート含む）	□ 泥の堆積状況 （ゴミの投棄状況含む）	□ 水路側壁のはらみがないか □ 目地が劣化していないか □ 表面に骨材露出がないか □ 不同沈下を起こしていないか □ 側壁背面に空洞が生じていないか □ 施設の破損・異常等はないか □ 藻類が水路に付着していないか
パイプライン	□ ポンプ吸水槽等の泥の堆積状況 （ゴミの投棄状況含む）	□ 給水栓ボックス： 洗掘されて基礎部がむき出しになっていないか □ ファームポンド等： 調整施設に損傷がないか
ため池	□ 泥の堆積状況 （ゴミの投棄状況含む） □ 管理道路の状況	□ コンクリート： 構造物の表面が傷んでいないか □ 遮水シート： 破れていないか □ コンクリート構造物の目地： 張りブロックの目地が傷んでいないか □ 貯水面： アオコの発生や水草の繁茂はないか □ その他施設： 取水施設の破損はないか □ 堤体法面： 水面と接する部分が侵食されていないか □ 給水栓ボックス： 洗掘されて基礎部がむき出しになっていないか □ ファームポンド等： 調整施設に損傷がないか
農　道	□ 路面の凸凹状況 □ 側溝の泥の堆積状況 （ゴミの投棄状況含む）	□ 路肩・法面： 崩れや亀裂、侵食はないか □ 路面： ひび割れや穴、窪みはないか □ 側溝本体： ひび割れや穴、窪みがないか □ 側溝目地： ひび割れや欠け、劣化は無いか □ 側溝裏込め： 空洞や穴は生じていないか

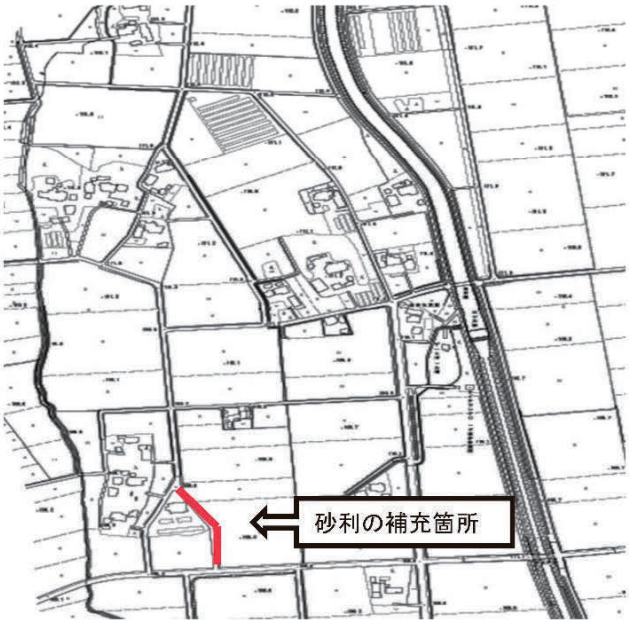
【参考様式】点検、機能診断、異常気象時の対応の際の結果取りまとめ

点検活動の記録管理

【農地維持活動】

施設区分：農道			整備年度： S42～S62		
施設名：			地区・区間等： ○○地区内		
点検活動			修復履歴		
実施時期（年月日）	点検結果	点検担当者	修復場所	実施時期（年月日）	作業内容
R1.6.10	・側溝の土砂堆積なし ・砂利道の一部にくぼみがあり砂利の補充が必要。	○○ ○ △△ △ □□ □	下図参照	R1.7.11	・砂利の補充

※地区内の位置や施設の点検状況の分かる写真・ポン地図を添付



写真①

写真②

（2） 金銭に係る注意事項

① 日当の支払について

・日当支出の基準（活動内容）や役員報酬の単価や根拠について整理し、毎年総会で諮りましょう。
・日当を支払う際には日当支払簿を整理し受領日、サイン又は印鑑を記載しましょう。
・団体の代表者等に一括で日当を支払った場合には、各個人に日当が支払われているか確認できる資料を整理しましょう。

【参考様式】活動出面表

令和〇〇年度　〇〇環境保全会　活動出面表

番号	氏名	活動月日	7月1日		7月10日		7月25日		計
		活動時間	9:00～12:00		10:00～12:00		13:00～16:00		
		活動内容	農用地法面の草刈り		水路の泥上げ		水路の草刈り		
		出欠・日当	出欠	日当	出欠	日当	出欠	日当	
1	〇〇　〇〇		〇	3,000 円		円	〇	3,000 円	6000 円
2	△△　△△			円	〇	2,000 円	〇	3,000 円	5,000 円
3	〇〇団体			円		円	5人	15,000 円	15,000 円
4	××　××			円		円		円	円
5	□□　□□			円		円		円	円
・	・			・ 円		・ 円		・ 円	円
・	・			・ 円		・ 円		・ 円	円
・	・			・ 円		・ 円		・ 円	円
・	・			・ 円		・ 円		・ 円	円
・	・			・ 円		・ 円		・ 円	円
計			20 人	3,000 円	13 人	2000 円	15 人	21,000 円	26000 円

【参考様式】活動受領書

令和〇〇年度　〇〇環境保全会　活動受領書

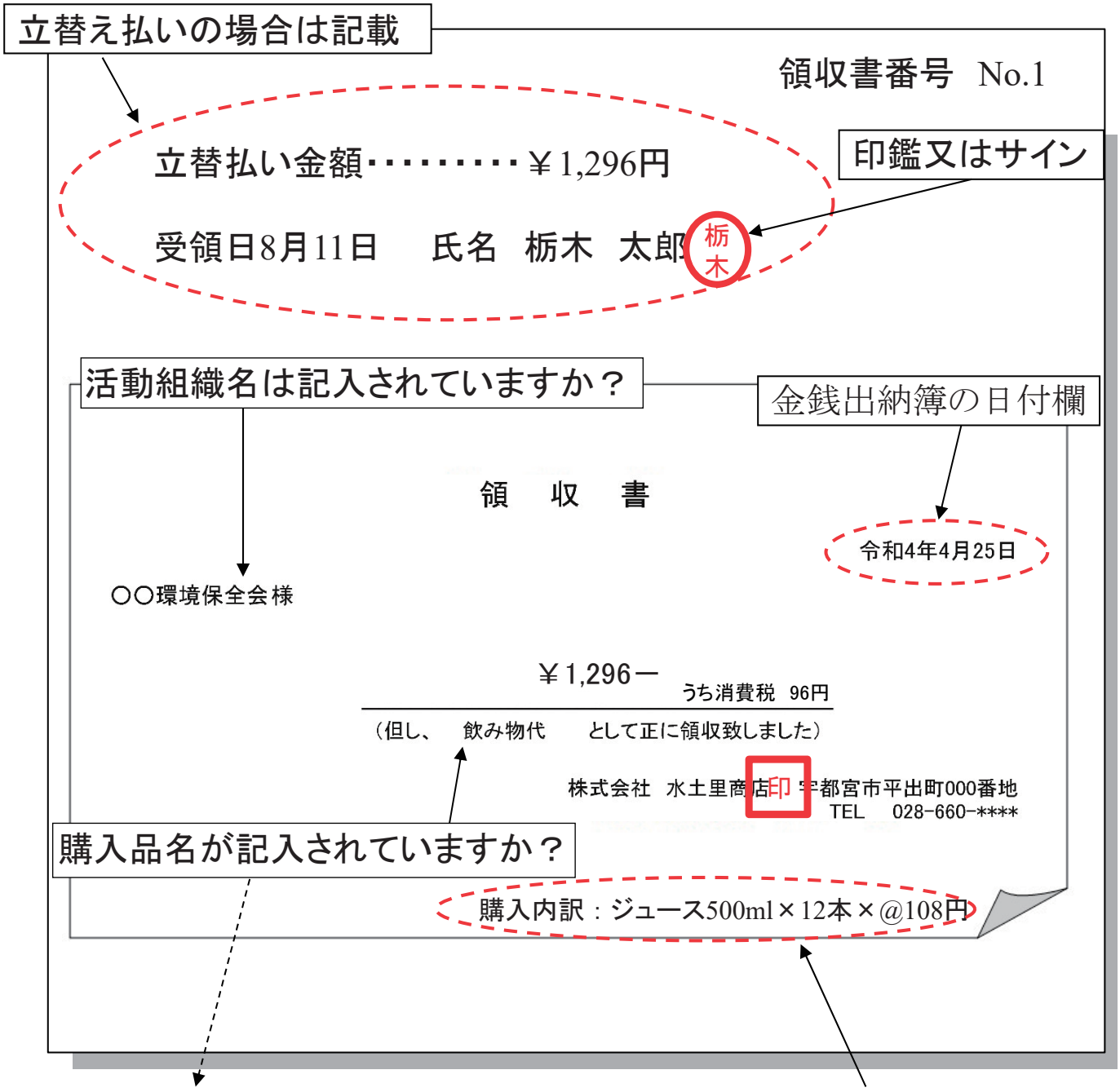
手書きにて記入します。

番号	氏　名	活動月日	活動時間	活動内容	日当支払額	日当受領月日	受領印又はサイン
1	〇〇　〇〇	5月1日	8:00 ～ 12:00	水路の泥上げ	4,000 円	6/15	〇〇
2	〇〇　〇〇	8月3日	9:00 ～ 12:00	農地法面の草刈り	3,000 円	10/20	〇〇
3	〇〇　〇〇	9月12日	13:00 ～ 15:00	農地法面の草刈り	2,000 円	10/20	〇〇
・			～		円		
・			～		円		
・			～		円		
・			～		円		
				計	9,000 円		

② 領収書・レシートの整理方法例

領収書として必要なのは「領収した」という文言、「目的となる金額」、「領収した日」、「領収した人の住所・氏名または社名」がはっきりと明記された文書です。

1） 領収書



※上記のように購入数量や単価が記載されていない場合は

“購入内訳:ジュース500ml×12本×@108円”

のように領収書または領収書を貼り付けた台紙に書きとめておきましょう。

2） レシート

領収書番号　No.2

立替え払いの場合は記載

立替払い金額・・・・・・・・・・￥1,068円

受領日8月11日　　氏名　栃木　太郎　栃木

印鑑又はサイン

金銭出納簿の日付欄

レシート原本

○○環境保全会

カワチ

（株）カワチ薬品　泉が丘店
℡　028-660-7871

メタボ対策は毎日の健康管理から！
当店ではお薬や健康食品、血圧計などの測定機器で健康をサポート
お気軽にご相談ください。

0123-0002　17年　5月8日（月）
担当：　FastLane2号機

212コカ・コーラ	90
212コカ・コーラ	90
212コカ・コーラ	90
212伊右衛門贅沢冷茶	90
212伊右衛門贅沢冷茶	90
212伊右衛門贅沢冷茶	90
212なっちゃんオレンジ	84
212なっちゃんオレンジ	84
212ＣＣグレープ	90
212ＣＣグレープ	90
212グリーンシャワー	90
212グリーンシャワー	90

12点/小　計	¥1,068
内消費税等　8%	79
合　計	¥1,068
現　金	¥10,100
お釣り	¥9,032

＜領収書＞

組織名を記載

コピー

○○環境保全会

カワチ

（株）カワチ薬品　泉が丘店
℡　028-660-7871

メタボ対策は毎日の健康管理から！
当店ではお薬や健康食品、血圧計などの測定機器で健康をサポート
お気軽にご相談ください。

0123-0002　17年　5月8日（月）
担当：　FastLane2号機

212コカ・コーラ	90
212コカ・コーラ	90
212コカ・コーラ	90
212伊右衛門贅沢冷茶	90
212伊右衛門贅沢冷茶	90
212伊右衛門贅沢冷茶	90
212なっちゃんオレンジ	84
212なっちゃんオレンジ	84
212ＣＣグレープ	90
212ＣＣグレープ	90
212グリーンシャワー	90
212グリーンシャワー	90

12点/小　計	¥1,068
内消費税等　8%	79
合　計	¥1,068
現　金	¥10,100
お釣り	¥9,032

＜領収書＞

・　領収書（レシート）は交付を受けた日が属する年度の翌年度から起算して5年間保管する必要があり、感熱紙の領収書（レシート）は時間の経過と共に消えたり、不鮮明になる場合があるので、必ずコピーを取って保管してください。

メモ

～多面的機能支払交付金は
農林水産省の補助事業です～

【お問い合わせ先】
栃木県　農政部　農村振興課　（電話）028-623-2338
栃木県農地水多面的機能保全推進協議会　（電話）028-660-5702

○関連情報はホームページでも詳しくご覧いただけます

- ◆ 栃木県 農政部 農村振興課
  http://www.pref.tochigi.lg.jp/g02/index.html
- ◆ 栃木県農地水多面的機能保全推進協議会
  http://www.tcgnouchimizu.net/
- ◆ 農林水産省 多面的機能支払交付金について
  http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html

令和4年8月